

第29回JA広島県大会決議の全体イメージ

第29回JA広島県大会
のテーマ

持続可能な農業・地域共生社会の未来づくり ～不断の自己改革によるさらなる進化～

JAグループ広島のめざす姿(10年後)

持続可能な農業の実現

豊かでくらしやすい地域共生社会の実現

協同組合としての役割発揮

3つの
基本目標

農業者の
所得増大

農業生産の
拡大

地域の
活性化

組合員との対話運動を通じた不断の自己改革の実践 (すべての重点取組事項を包括)

組合員との対話を通じた自己改革実践サイクルの構築・実践

1 持続可能な食料・農業生産の 確立

1. 農業者と共有する所得向上目標及び販売品取扱高目標の設定
2. 県域における実施計画
3. JA営農振興計画の策定
4. JA営農振興施策の展開

2 持続可能な地域・組織・事業基盤 の確立

1. 組合員の「アクティブ・メンバーシップ」の確立
2. 青壮年組織・女性組織のメンバーシップ強化
3. 生活インフラ機能の発揮と多様な連携強化による地域活性化への貢献

3 不断の自己改革の実践を支える 経営基盤の強化

1. 持続可能な経営基盤の確立・強化
2. ガバナンス・内部統制の確立と経営の健全性確保

4 協同組合としての 役割発揮を支える人づくり

1. 協同組合らしい人づくり
2. 組織基盤の確立に向けた人づくり
3. 経営基盤の強化に向けた人づくり

5 「食」「農」「地域」「JA」にかかる県民理解の醸成

1. 「食」「農」「地域」とこれらを支える「JA」にかかる県民理解の醸成
2. 「JAグループ広島統一広報戦略」に基づくJAグループ広島が一体となった情報発信の強化

取り巻く
環境変化

人口減少・高齢化

正組合員の減少

協同組合意識の希薄化

コロナ禍による
価値観・行動変容

地域社会存続への
危機感

早期警戒制度の
見直し

農地の減少

基幹的農業従事者の
減少

食料・農業・農村基本
計画への対応

自然災害の激甚化

持続可能な社会実現
への要請

劇的に拡大する
デジタル化

 重点実施事項

はじめに

JAグループ広島は、第26回JA広島県大会(平成24年11月)で決議した、10年後のめざす姿『次世代とともに「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として存立している姿』の実現のため、自己改革の実践として「3つの基本目標(農業者の所得増大・農業生産の拡大・地域の活性化)」の達成をめざして様々な取り組みをすすめ、多くの組合員から自己改革への評価の声をいただき、「10年後のめざす姿の実現」について、一定の成果を得ることができました。

第29回JA広島県大会(令和3年11月)では、大会テーマを「持続可能な農業・地域共生社会の未来づくり～不断の自己改革によるさらなる進化～」とし、次の10年後を見通した新たな「めざす姿(「持続可能な農業の実現」「豊かでくらしやすい地域共生社会の実現」「協同組合としての役割発揮)」とともに、引き続き3つの基本目標の達成に向け「不断の自己改革」に取り組むことを決議しました。

また、各JAでは、担い手を中心とした組合員との話し合いを通じて、組合員のニーズを把握し、具体的な実践計画(自己改革工程表)を作成し、地域に根ざした特色ある取り組みを展開しています。

本冊子では、そうしたJAグループ広島の自己改革の取り組み事例をまとめました。

今後も、3つの基本目標の達成に向けて、組合員との対話運動を通じた不断の自己改革を実践し、新たな「めざす姿」の実現に取り組んでまいります。

目次 INDEX

JAグループ広島としての取り組み	02
「農業者の所得増大」への取り組み	14
■ 担い手の経営力の向上	16
■ 農産物販売機会の拡充等	17
■ 新商品等の開発	21
■ 買取・販売体制強化	23
「農業生産の拡大」への取り組み	26
■ 産地化、栽培技術の平準化・高度化	28
■ 新規就農者の育成・担い手支援	33
■ 設備投資支援	35
■ 作業効率化	37
■ 鳥獣被害軽減	38
「地域の活性化」への取り組み	40
■ 食農教育等	42
■ ライフラインの確保	46
■ 地域維持	47
■ 地域交流等	49
JA別索引	55



組合員との対話運動を通じた不断の自己改革の実践

JAの自己改革実践にあたり、担い手を中心とした組合員と徹底的な話し合いを通じ、組合員のニーズを把握、必要な実践方策を「自己改革工程表」として取りまとめています。

「自己改革工程表」に掲げた方策の実践状況について、組合員と話し合い、自己改革実践サイクル（PDCA）を回し、自己改革の進化につなげます。

これまでの自己改革により取り組みが進展

【組合員との対話運動を通じた不断の自己改革の実践】

- JAグループ広島では、3つの基本目標（農業者の所得増大、農業生産の拡大、地域の活性化）の達成に向け、平成24年度から自己改革の取り組みを展開しています。

《第28回JA広島県大会期間(令和元年度～令和3年度)における自己改革取り組み項目》

■生産段階の取り組み

	令和元年度	令和3年度
スマート農業導入の促進(機械リース、導入支援等)	6JA	9JA
低コスト技術の普及	11JA	12JA
省力技術の普及	9JA	9JA

■販売段階での取り組み

	令和元年度	令和3年度
実需者ニーズに合わせた規格・数量設定	7JA	9JA
消費者・小売業者・食品業者への直接販売	10JA	12JA
買取販売	11JA	11JA
商標登録	15件	17件
地域団体商標	7件	9件
地理的表示(GI)保護制度登録	3件	4件

■農業者の経営支援

	令和元年度	令和3年度
経営コンサル		
決算データ活用	4経営体	6経営体
生産販売データ活用	5経営体	7経営体
経営実績活用	4経営体	9経営体

■新規就農者の育成

	令和元年度	令和3年度
研修		
JA(子会社含む)による研修受入	14人	27人
JA(子会社含む)による雇用研修	4人	0人
農家による研修の調整・仲介	14人	30人
公的機関による研修の支援	6人	8人
就農	29人	35人

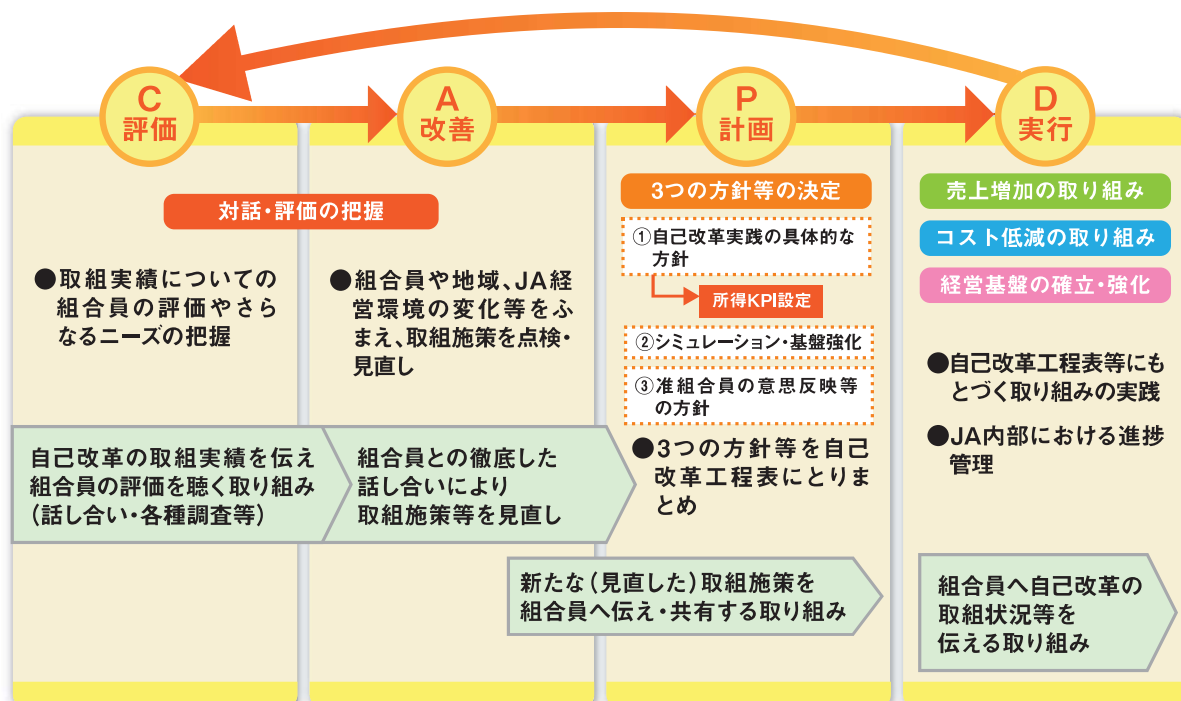
(全JA調査結果より作成)

今後の自己改革の実践方策を「自己改革工程表」に明確化

- 第29回JA広島県大会(実践期間:令和4年度～令和6年度)では、これまでの自己改革の取り組みを踏まえ、不断の自己改革を確実に実践するため、「組合員との対話を通じた自己改革実践サイクルの構築・実践」を決議しました。

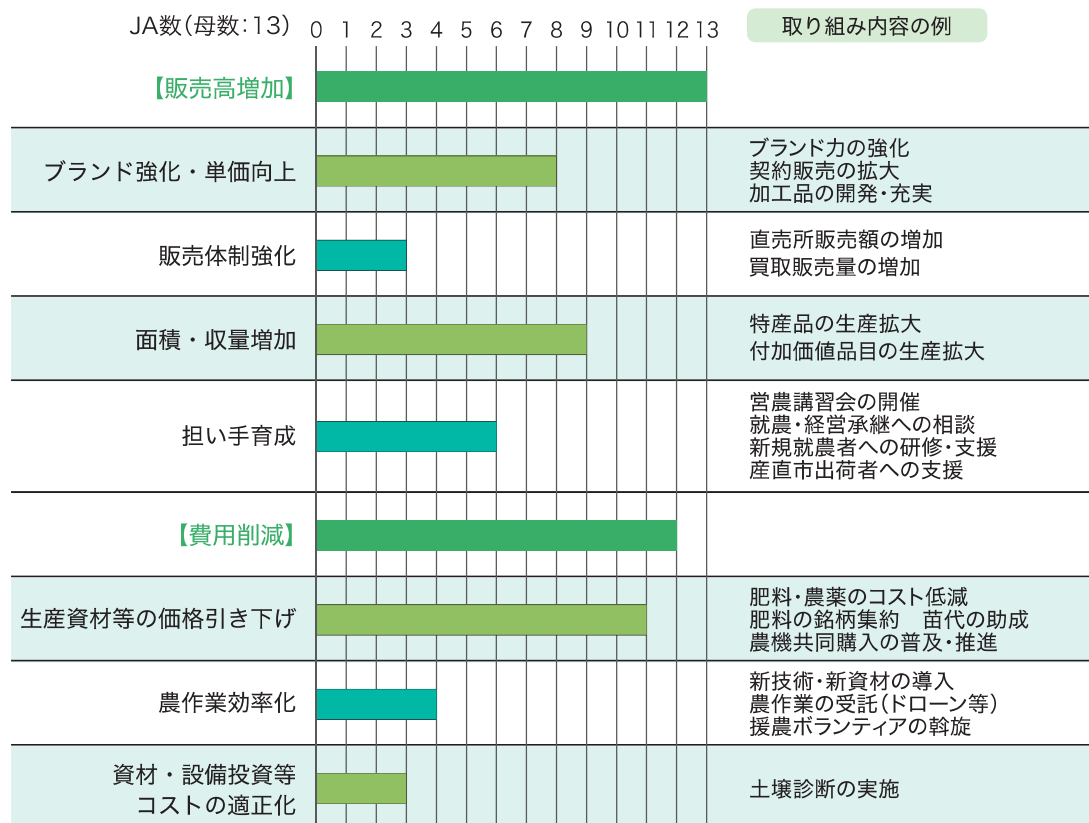
この決議を受け、県内JAでは、より組合員ニーズに合わせた自己改革を実践するため、組合員との徹底した話し合いを通じ、「自己改革工程表」を作成し、自己改革実践サイクルとしてPDCAの構築を進めています。

《自己改革実践サイクルによるPDCAの展開》

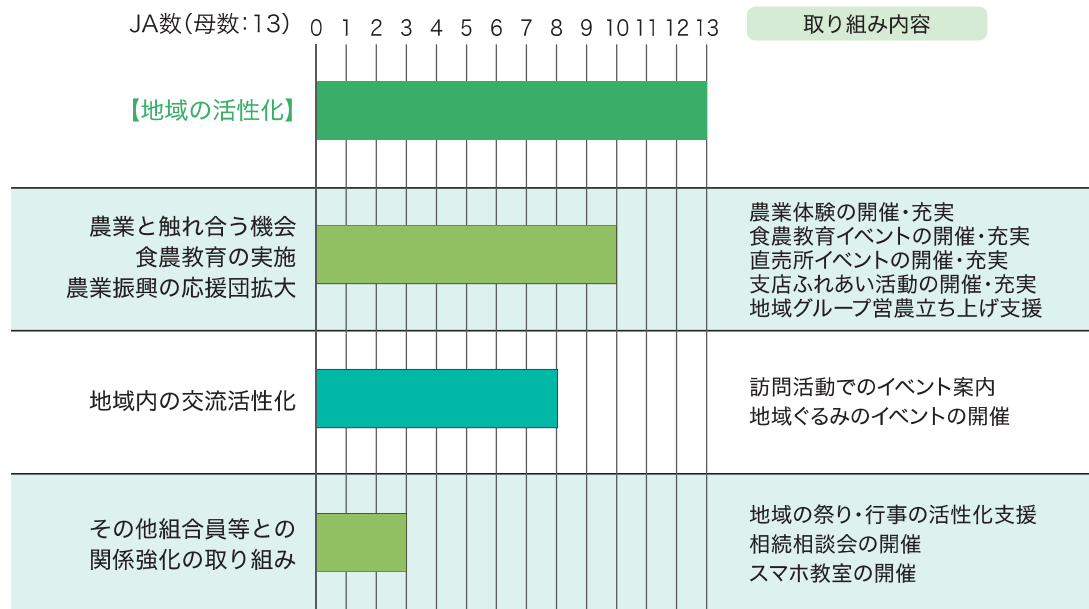


《自己改革工程表に掲げる取り組みテーマ》

農業者の所得増大・農業生産拡大



地域の活性化



《自己改革を通じた農業者の所得増大（県内JAの取り組み事例）》

●馬鈴しょの買取販売（JA芸南）

買取の拡大により、市場価格に左右されない安定した農家所得向上を図る。

市場平均単価 2,550円／10kg

買取平均単価 2,700円／10kg

※Lサイズでの算出



所得増大効果

+150円／10kg



●かんきつ類の奨励品種拡大に向けた苗木の助成（JA広島ゆたか）

いしじ・レモンの生産拡大に向け、未収穫期の短縮を目的とした苗（すでに1～2年育成されている苗）の供給・助成を実施。

樹木平均売上高（※1）

15,000円／1本あたり

新規就農者の平均苗木購入本数（※2）

80本

新規就農者

20名



新規就農者の経営安定（平均収穫時期）効果
（※1×※2）×2年

240万円



◎2年早く販売できるため、約240万円の収入増を見込む。



持続可能な食料・農業生産の確立

中長期的に人口減少や少子高齢化がすすみ、農業者・農地の問題など農業生産基盤の弱体化が懸念されるなか、食料安全保障や食料自給率向上への関心の高まりをふまえて、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として持続可能な「食料・農業生産の確立」に取り組んでいます。

広島県農業の次世代の担い手確保と、農業従事を継続できる環境づくり

【次世代総点検運動の実施】

●JAグループでは、5年後、10年後の地域農業の姿を展望し、持続可能な地域農業を次世代に継承するための課題の洗い出しと課題解決に向けた担い手育成を柱とする改善策を提案する「次世代総点検運動」をすすめています。

JAグループ広島における次世代総点検運動は、モデルJAにおける集落営農組織への農業経営コンサルティング(3JA4経営体(令和5年3月現在))を通して展開しており、農業者及び後継者へのアンケート調査により新規就農を含む後継者育成や労働力不足などが共通的な課題として明らかになっています。

今後は、行政等関係機関との連携を図りながら、モデル経営体の経営改善提案として、新規就農育成対策や労働力確保対策、集落営農組織間連携、農地集積などの具体的な改善策に取り組み、次世代の担い手確保につなげていきます。

また、モデル経営体での取り組み事例を関係者で共有し、全県域での運動展開をめざします。

次世代総点検運動の全体像

JAの組織・事業の基盤である組合員の減少

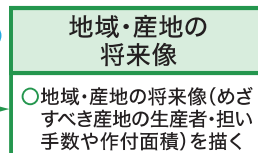
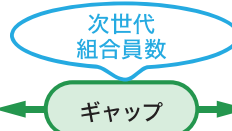
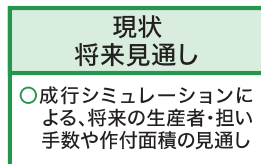
地域農業の担い手である農業従事者等の減少

次世代総点検運動のめざすもの > 「次世代組合員」を計画的かつ確実に創出すること

第1段階 「計画的に」

組合員参画型の地域農業振興計画・中期経営計画の策定

- 地域・産地の将来見通しにもとづく話し合いによる組合員・役職員の危機感の共有化
- 将来像のなかで、「次世代組合員数」を目標として設定(各JA・県域で年齢・総数・新規などを設定。)



第2段階 「確実に」

ターゲットに応じた個別支援の実践(事業承継・新規就農支援等)

担い手支援策の体系化

- 事業承継支援
 - ・事業承継計画の策定支援(目標:策定件数)
 - ・事業承継計画の実践支援
- 新規就農支援
 - ・第1ステージ:募集(目標人数の明確化)
 - ・第2ステージ:研修・就農・定着

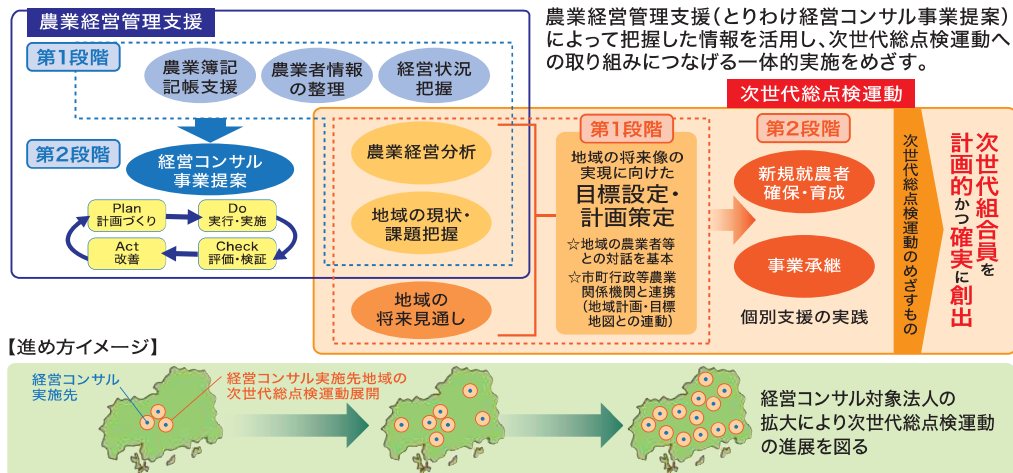


支援対象者等を具体化

- 目標達成のため、個別のアプローチリストを作成。
- まず、後継者・後継者候補者の点検から始め、次に外部人材を求める。

第1段階を待たず、
同時並行的にできるところから取り組む。

農業経営管理支援と連携した次世代総点検運動の取り組み (イメージ)



生産者の営農継続への支援

【肥料価格高騰に対する支援】

- 深刻化するウクライナ情勢や急激な円安等により高騰している肥料価格に対し、JAグループとして国へ支援要請を行った結果、肥料価格高騰対策事業の措置が決定されました。また、国の事業では補填できない部分が残ったことを受け、JAグループ広島は、独自に県に支援要請を行った結果、肥料価格緊急対策事業の措置が決定されました。国・県による事業実施を受け、JAグループ広島では農業者からの申請事務支援に取り組みました。なお、今後、令和5年春肥分の申請事務支援を行っていきます。

JAグループ広島の申請事務支援農業者数・支援額(令和4年秋肥分)

	農業者数	支援額
肥料価格高騰対策事業(国費)	1,773名	5,080万円
肥料価格高騰緊急対策事業(県費)	1,773名	1,300万円

【飼料価格高騰に対する支援】

- 高止まりしている飼料価格に対し、JAグループ広島と広島県畜産関係団体連絡協議会の連名により、県に支援要請を行い、令和3年度・令和4年度の価格対策として、「配合飼料価格高騰緊急対策事業」「酪農経営改善緊急支援事業」の措置が決定されました。県による措置決定を受け、JAグループ広島は、事業実施主体として畜産農家・酪農家支援に取り組んでいます。

【県内で発生した鳥インフルエンザへの対応】

- 広島県では、令和4年12月に県内1例目の高病原性鳥インフルエンザを確認し、令和5年1月末までに、6例発生し、感染家きん等の殺処分数は過去最高の約168万羽を数えました。JAグループ広島は、県からの防疫措置対応の人的支援要請を受け、役職員を防疫措置に派遣しました。

JAグループ広島の役職員による支援 延べ約300人(計21日間)

持続可能な地域・組織・事業基盤の確立

多様な組合員・地域住民との対話を徹底し、アクティブ・メンバーシップを構築することで、地域・組織を活性化し、持続可能な「地域・組織・事業基盤の確立」に取り組んでいます。

JAの事業・活動を通じた地域・組織の活性化

【支店広報誌による地域情報の発信】

●JAでは、JAの活動や地域情報等を発信し、組合員・地域住民との結びつきを強化することを目的に、「JA広報誌」や「支店広報誌」を発行しています。

JAグループ広島では、「支店広報誌」のより効果的な活用に向け、令和4年8月に「JAグループ広島『支店広報誌コンクール』」を開催しました。

県内11JAが参加し、支店広報誌づくりのポイントやノウハウを共有しました。

受賞JA

受賞名	支店名	支店広報誌名
最優秀賞	JA広島北部 大朝支店	大朝支店だより～ひめしやが通信～
優秀賞	JA三次 三良坂支店	ほっと♡
優良賞	JA広島中央 西条支店	瓦版 西条よっか市
審査員特別賞	JA庄原 本店	サクラニュース



大朝支店だより～ひめしやが通信～

【支店協同活動による地域住民の集いの場の構築】

- JAでは、持続可能な「地域・組織・事業基盤の確立」の実現に向け、地域住民の集う機会の創造を目的に「支店協同活動」を展開しています。

JAグループ広島では、「支店協同活動」を支援し、取り組みの共有を図ることを目的に、令和5年2月に「JAグループ広島『支店協同活動コンクール』」を初めて開催しました。

県内からは5JAが参加し、代表者によるプレゼンテーション発表を通じて、情報共有を行いました。

受賞JA

受賞名	支店名	発表テーマ・内容
最優秀賞	JA佐伯中央 吉和支店	【支店協同活動で地域にや和らぎを】 ・吉和支店夏まつり・ミニ展示会 ・シトラスリボン活動
優秀賞	JA呉 藤脇店	【地域とともに】 ・りんご狩り日帰り旅行 ・フェルトソープ作り
優良賞	JA庄原 上下支店	【支店協同活動で地域と共に！】 ・ふれあいの夕べ ・小学校食農教育(アスパラガス・お米作り学習)



最優秀賞
JA佐伯中央 吉和支店
の発表の様子

女性運営参画の促進に向けた意識醸成

【女性活躍推進に向けた研修の実施】

- JAグループ広島は、女性農業者の増加等を受け、JAの事業・組織運営に女性の力を反映させるため、正組合員の女性比率30%以上、総代の女性比率15%以上、理事等の女性比率15%の目標を掲げています。

JA広島中央会は、女性がJAの組織・事業・経営への運営参画にあたり、諸情勢を把握するとともに、他JAとの意見交換を行うことで課題等を共有し、JA女性役員としての一層の役割発揮を期待し、初めて女性役員研修を開催しました。

JA運営や地域の農業リーダーとして女性の果たすべき役割は大きく、女性ならではの感性を活かした積極的なJA運営への参画に向け、役員として今後やりたいことや悩みなどをグループで共有しました。



課題等について情報共有する女性役員

不断の自己改革の実践を支える経営基盤の強化

協同組合としての役割を発揮する組織として、持続可能な収益性や健全性確保に向けて、不断の自己改革の実践を支える経営基盤強化に取り組んでいます。

組合員サービスの向上に向けたJAの合併

【「JAひろしま」の誕生】

- 第28回JA広島県大会で決議した県域統合JAに向けた先行合併として、令和5年4月1日に全国でも有数規模の「ひろしま農業協同組合（愛称：JAひろしま）」が誕生します。県内では17年ぶりのJA合併で、現行の13JAのうち、9JAが合併し、5JAとなります。JAひろしまのキャッチコピーである「はぐくもう、真心をこめて あなたとの未来」をモットーに、合併のメリットを最大限に活かしながら、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として農業者をはじめとした組合員の負託に応えていきます。



「JAひろしま」ポスター



合併契約調印式(令和4年2月8日)

「食」「農」「地域」「JA」にかかる県民理解の醸成

食と農、地域を支える組織としてのJAに対する、県民や幅広い関係者の理解と信頼・共感を得て、「食」「農」「地域」「JA」にかかる県民理解の醸成に取り組んでいます。

「地産地消」の推進に向けた情報発信強化

【JAグループ広島の「地産地消」デリシャス大使へのMachicoさん任命】

●JAグループ広島では、「食料安全保障」の意識の高まりや広島県生産者の厳しい現状をふまえ、令和4年7月より訴求力・発信力のあるインフルエンサーとして、声優・アーティストMachicoさんを起用し、広報活動を展開しています。JAグループ広島の重要訴求対象者である「子育て世代女性層」や「若年層」を中心に、地産地消の推進に向け情報発信を行っています。

Machicoさんは、令和4年12月に、「JAグループ広島『地産地消』デリシャス大使」に就任し、JAグループ広島とともに、より一層県内農畜産物の魅力や消費拡大を呼び掛けています。

JAグループ広島公式YouTubeではJAが地域に必要な存在であることへの理解や共感を促す短尺動画も公開し、地産地消を訴え農家を応援しています。



JAグループ広島 「『地産地消』デリシャス大使」就任ポスター

【ひろしまフードフェスティバルでの「地産地消」体験】

●令和4年10月29日、30日に、3年ぶりにひろしまフードフェスティバルが実開催され、延べ105,000人が来場しました。

JAグループ広島は「地産地消」を大きなテーマに、JA全農ひろしまによる産直市や、JA広島農青連による餅つきのほか、ゲストを招いてのトークショーやキッチンカーを使って子どもが県産牛乳とレモンを使った飲料作りを体験するブース等を設け、地産地消の理解を促進しました。



地産地消トークショーを楽しむ参加者

【広島県の食の魅力を発信】

- 令和5年5月に広島で開かれる先進7カ国首脳会議(G7広島サミット)を見据え、地域で活動するJA組織ならではの食の情報を発信する「広島県の食の魅力発表会」を令和5年2月28日に開催しました。

地域メディア関係者やバイヤーに対し、食材や取り組みを紹介するプレゼンテーションや個別ブースでの説明、試食を通じて、各JAや連合会の「イチオシ情報」を伝え、地域密着の情報を発信しました。



プレゼンで広島の農産物をPR



ブースで広島の農産物を紹介

食の魅力発表会 出展団体一覧

団体名	プレゼンPR食材	展示ブース内容
広島市	本場川内特産広島菜漬	本場川内特産広島菜漬
呉	お宝とまと・江田島きゅうり・アイミイトマト	お宝とまと・江田島きゅうり・アイミイトマト(加工品展示)
広島中央	米「恋の予感」	米「恋の予感」・レンコン
芸南	—	じゃぼんサイダー・チーズケーキ
尾道市	—	はっさくゼリー・シャーベット
三原	せとだエコレモン及び加工品	せとだエコレモン 及び 加工品(ハート・スターレモン)
福山市	くわい	くわいカレー・くわいっこ
広島北部	—	チンゲンサイ・青ネギ・青ネギドレッシング
三次	—	三次ピオーネワイン、ネギ油、ラー油、山椒、ドレッシング等
全農	「耕畜連携・資源循環ブランド3-R」	耕畜連携・資源循環ブランド「3-R」の商品
広島連	はるかっなど	はるか等柑橘、ジュース
広酪	—	七塚バター



地域共生社会に向けた取り組み強化

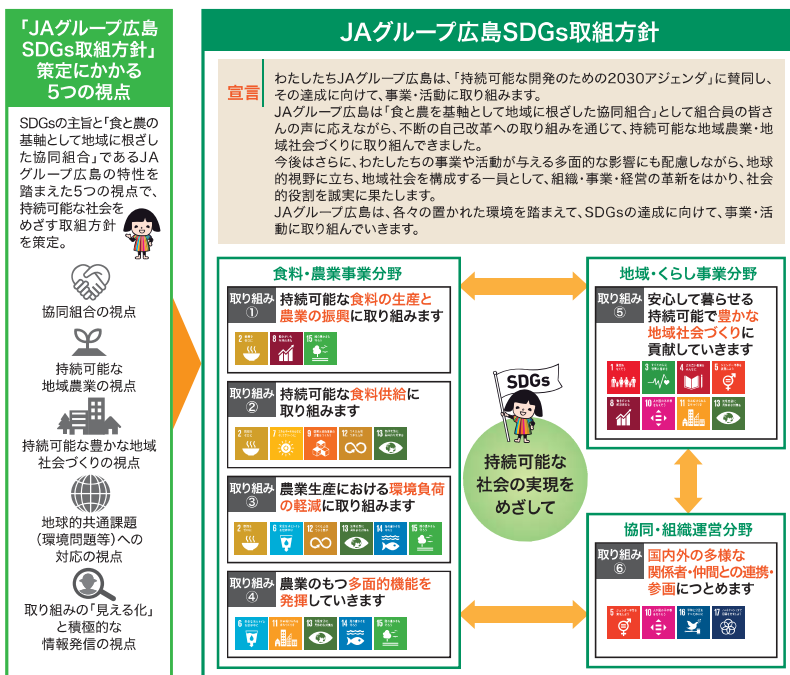
【SDGsの取り組みの充実】

- 県内JA・連合会におけるSDGsの取り組み内容の情報共有と、先進JAおよび協同組合間連携の事例を学び理解を深めることを目的に、令和5年1月に「JAグループ広島 SDGsプロジェクト会議」を開催しました。

JAグループ広島では、「JAグループ広島SDGs取組方針(令和2年9月17日策定)」に基づき県内JA・連合会で特色ある取り組みを展開しており、グループワーク等を通じて、今後の取組課題や問題解決に向けた意見交換を行い、今後も取り組みの充実につなげていきます。



取組課題等について意見交換をする参加者



【地域共生社会づくりに向けた県内の協同組合の連携】

- 県内の協同組合で構成する広島県協同組合連絡協議会(HJC)では、協同組合が抱える危機をふまえ、協同組合運動やSDGsの理解を深めるとともに、構成団体の連携強化を図るため、講演・学習会を開催しました。

講演会では協同組合の定義や歴史のほか、複雑化する社会問題解決に向けた協同組合連携事例を学ぶとともに、地域活性化に向け人々が集う場づくりや環境問題解決に向けてHJC間で連携できる取り組みを協議しました。

今後も、よりよい社会づくりに貢献するため協同組合間連携を強化して活動を展開していきます。



地域の課題について話し合う参加者

「農業者の所得増大」 への取り組み



「農業者の所得増大」に向け、担い手の経営力向上や販路拡大等、様々な切り口から取り組みを展開しています。

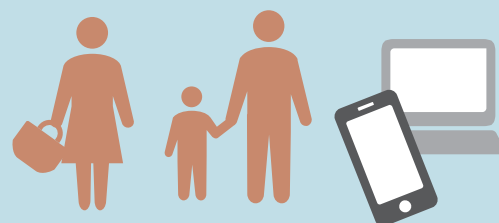
担い手の経営力の向上

- 話し合い実践運動を通じて聞き取った経営課題の解決に向け、税務や財務等の経営スキル向上に向けた研修を実施。
- 経営者間の連携や課題・情報共有。



農産物販売機会の拡充等

- 農産物の認知度・需要を高めるため、イベントや販売促進キャンペーンを展開。
- 農畜産物のネットショッピング取引の強化。





「よりん菜」周年祭(JA佐伯中央)



たわわに実った稲穂(JA安芸)



道の駅「のん太の酒蔵」オープン(JA広島中央)

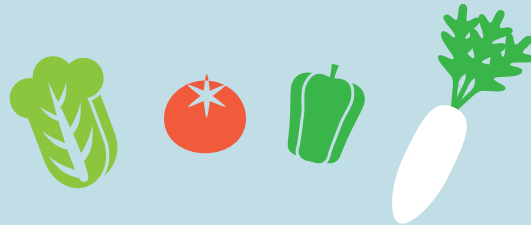
新商品等の開発

- 農畜産物の付加価値を高めるため、加工品を開発。
- 新たなブランドの立ち上げ。



買取・販売体制強化

- 新たな買取・販売体制の構築。



馬鈴しょの収穫(JA芸南)



「ふれあい市」で地元農産物PR(JA福山市)



農業経営者セミナー(JA広島信連)



「農家の声をJA運営に」

対話・意思反映に関する取り組み

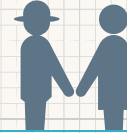
農家、組合員、利用者との対話を核とした取り組みの一つである「JA役員による担い手農家訪問」は、今年、個別訪問から地域やブロックでまとめた座談会形式に切り替え、法人間での連携や課題共有も併せて行った。また、JA担当者だけでなく、全農ひろしまや全農アグリサポート広島も参加し、情勢報告に加えてICT技術の紹介や大型機械の安全使用における注意喚起なども併せて説明した。

目的 対話を通じて、組合員、利用者、農事組合法人や大型農家の意見要望を聞き、今後のJA運営に反映させる。



成果

訪問回数
令和3年度 32件・171回
16%増
令和4年度 36件・199回



今後の取組方向

今後も、地域や集落法人等の意見や要望を把握する「組合員との対話」の機会として、継続的に取り組んでいく。

組合員 利用者の声

地域や集落法人が抱えている問題を共有するいい機会となった。

JA広島信連

農業経営者セミナー



令和4年12月～令和5年1月までの間、JA広島中央会と連携し、「会計・税務」「事業承継」「労務管理」「農産物販売戦略」のセミナーを開催。令和3年度よりWeb受講可とし参加者から好評だったため、令和4年度も継続。

目的 農業経営者における様々な経営課題をサポートすることにより、農業経営者の生産意欲の向上を図り、JAグループの自己改革の最重点実施事項の1つである農業者の所得増大・農業生産の拡大に繋げる具体的な取り組みとして開催。



成果

参加人数
63名
(4テーマ4回)

今後の取組方向

セミナー内容の変更等を検討のうえ、継続して実施予定。

組合員 利用者の声

講師の経験を踏まえた事例紹介や、税制改正に伴う農業者の対応ポイント等、参加者のニーズに応えたセミナー内容であったため、大変好評をいただいた。



JA産直ふれあい市場

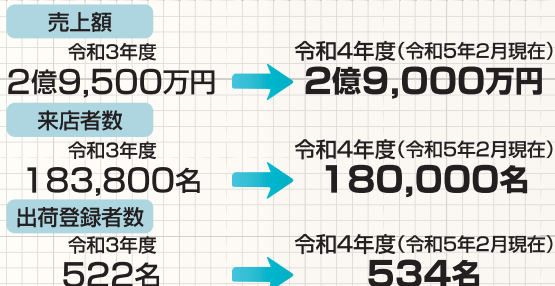
「よりん菜」の集客イベント

JA産直ふれあい市場「よりん菜」を開催場所としてイベント・特売を行うことで、情報発信・来店者集客・地域農業の活性化を実現。令和4年4月より日曜営業を開始した。

目的 農業者の所得増大と農業生産の拡大を図ることで、地産地消を発信し、産直市場において開催するイベントで、来店者増加と売上、登録者の増収をめざす。



成果



今後の取組方向 出荷登録者の増加、出荷物の品質向上を図り、新たな産直向け野菜を推奨する。

組合員 利用者の声

食卓にはなるべく地元の野菜を使いたくてよく訪れる。廿日市市産のバラは、高品質で花持ちがいいものが多い。長く楽しんでほしい。



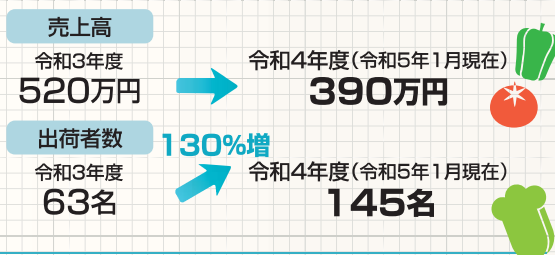
産直市の活性化

新鮮な野菜を販売し、旬の農産物の情報をお届けするだけでなく、役職員が利用者と直接交流して産直市の活性化に取り組んでおり、JAの事業や自己改革への評価や意見・要望・期待など、幅広い世代の組合員や地域住民と直接対話することで情報交換を行う貴重なふれあいの場にもなっている。

目的 農産物の販売促進を目的に、本店前(毎週火曜日)とフジ海田店(毎週木曜日)の2カ所で産直市を展開。



成果



今後の取組方向 取り扱い品目の増加に向け、引き続き出荷者募集を行う。

組合員 利用者の声

「新鮮でおいしい旬の農産物が手に入るのうれしい。」「美味しい野菜の見分け方やレシピ、JAのイベントなど知ることができるので毎回楽しみにしている。」と好評。

碗米チェンジ



1日1食、ご飯食を増やそうと呼びかけるため、令和4年11月26日～1月10日に「碗米チェンジ」キャンペーンを実施。リーフレットや交流サイト(SNS)でプレゼント企画などを発信したり、イベント出展などでPRして、消費拡大につなげた。

目的 消費圏でもある管内の東広島市の消費者に現状を知らせるリーフレットを発行し、地産地消や消費拡大を後押しする。



成果 リーフレットを57,000部発行して、東広島市の消費者に配布。プレゼント企画への応募約2,000件

今後の取組方向 米をはじめとした消費拡大の取り組みを続けていく。

組合員 利用者の声

プレゼント応募にはメッセージを記入してもらった。その中には「農家の現状を知らなかった。食べて応援したい」「地域の景観を守ってほしい」などの声が多数あった。「恋の予感」が特Aを獲得したことや「ぶちうまいお米コンテスト」についての好意的な意見も多くあった。

ふれあい市安芸津店

新築オープン



令和4年12月に、新しく農産物直売所「ふれあい市安芸津店」を新築オープンした。テラスも設置し、穏やかな三津湾が望める絶景のビュースポットで、お買い物と景色が楽しめる。

目的 とれたて新鮮な農作物等を消費者へ提供し、生産者の所得も向上させる。



成果 令和3年度 1億5千万円 → 33%増 令和4年度 2億円(予定)



今後の取組方向 商品を切らさないようにするために、出荷会員の増大と、需要のある農作物の栽培指導の強化。

組合員 利用者の声

建物も新しくなり通路も広く、商品も整理されて買い物がしやすくなった。巡回バスが停まるようになり、車がなくともお買い物ができるうれしい。来店客が増えて売上が上がった。



特産加工品

「はっさくシャーベット」の消費拡大

令和元年から本格販売を始めた「はっさくシャーベット」の消費拡大を図るため、テレビCM放送およびYouTube広告で宣伝。5月～8月のお中元シーズンに、広島・岡山民放4社・YouTubeで放送。今年度は、JA尾道市産直市「ええじゃん尾道尾道店」で撮影した。YouTube動画は共済連事業活用。

目的

JA尾道市特産加工品「はっさくシャーベット」の消費拡大。

成果



今後の取組方向

引き続き、メディアを活用した広報展開を予定。



組合員 利用者の声

面白い発想のCMと好評を得ている。



JA産直市「やさふれあい市場」

集客イベントの実施

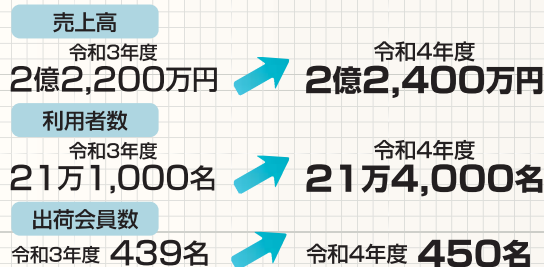
やさふれあい市場をご利用いただいている方々へ日頃の感謝を込めて、イベントを実施。JA三原女性部による炊き込みご飯などの販売や、「新米まつり」として管内産新米の販売促進を図り、地域との交流を深めた。また、店頭には地元の新鮮な野菜や果実が数多く並び、開店前から多くの利用者が列を作り、賑わった。

目的

販売促進および地域住民との交流。



成果



今後の取組方向

消費者ニーズを的確にとらえた商品の充実、販売体制の確立、生産者手取りの向上、利用者接点のさらなる拡大。

組合員 利用者の声

新鮮な地元野菜や果実が揃っていて、買い物に来るのが楽しみです。地元の方が作る旬な野菜や珍しい野菜をいつも楽しみにしています。生産者の方の顔が見えるので安心して買い物ができます。いつも明るく親切なスタッフの対応で、気持ちよく買い物をさせてもらっています。

FUKUYAMAふくふく市・ふれあい市による産直強化



産直市では、コロナ感染防止対策を図りながら地元農産物のPR活動を展開。5月にはJAふれあい祭(福山ばら祭2022協賛)を開き、新鮮な農産物の販売やSDGsの取り組み紹介等を行った。FUKUYAMAふくふく市では生産者の理解のもと、売れ残り品をフードバンクへ無償提供をする取り組みを実施した。

目的

FUKUYAMAふくふく市を開設し、既存6カ所のふれあい市の取り組みに合わせて地産地消のベースを拡大。地域に密着した直売所として広く地元農産物をPRし、地産地消の推進と農業者の所得増大、食料・農業・JAに対する理解促進を図る。

成果

売上実績



今後の取組方向

コロナ禍を注視し、新鮮で安全・安心な農産物や加工品などの販売を通じて、管内農産物の消費拡大と農業所得の向上をめざす。



組合員 利用者の声

子どもも新鮮なお野菜等を食べて、おいしいと喜んでます。沢山農産物が並んでいて興味をもっています。
気になっても味がわからないから購入を考える商品が多数ある。コロナが落ち着いたら是非試食をさせて欲しい。
いつもとても楽しみに来ています。昨日は友人と「来てよかったね」と何度も話しました。

農畜産物の販売チャネル拡大



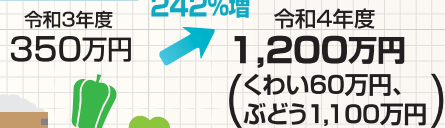
FUKUYAMAふくふく市の共選品取扱量増加。ネットショッピングで、特産のくわい・ぶどうなどの販売強化に取り組んだ。

目的

農畜産物の販売先を拡大することで、農業者の所得増大につなげる。

成果

ネット販売



今後の取組方向

FUKUYAMAふくふく市での、取扱品目の増加並びに買取販売品の強化。販売先の開拓。



組合員 利用者の声

ふくふく市は地産地消で素晴らしい品物がたくさんあり、とっても良かったです。店員さんは、皆さんとてもキビキビと明るく声掛けをされていて、感じが良いです。値段も手ごろで、生産者さんの気持ちをありがたく感じました。

とれたて元気市広島店 リニューアルオープン

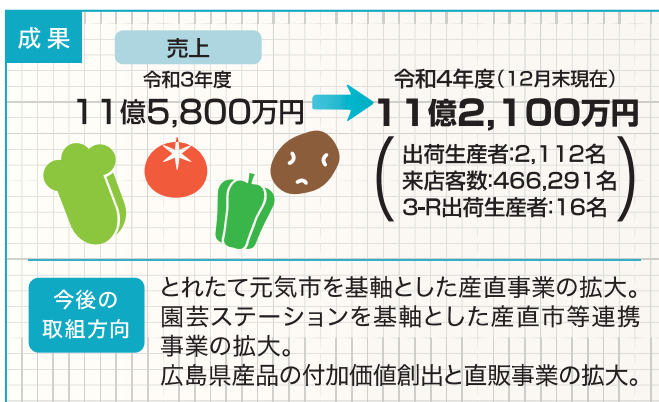


精米コーナーや、県内産和牛、瀬戸内海産を中心とした魚介類の販売コーナーを展開。「みのりみのるキッチン」と「みのりカフェ」を新設し、惣菜、クレープ、ドリンクなどの販売も開始。生産資材の購入や営農情報の検索ができる「JA-eCAT」コーナーも設置。

畜産たい肥や飼料用作物といった地元の資源の活用を促進する耕畜連携・資源循環ブランド「3-R(さんあーる)」コーナーもリニューアル。

目的

市場以外の販売先の一つとして展開し、生産者の所得増大、農業生産の拡大につなげる。生産者と消費者の交流や、安全で新鮮な国産農畜産物の購入ができる場所を提供する。



組合員 利用者の声

スーパーに置いてない珍しい商品もあり、買い物が楽しい。広島県産の新鮮な野菜などが購入できるのが嬉しい。生産者の顔(名前)がわかるので安心して購入できる。

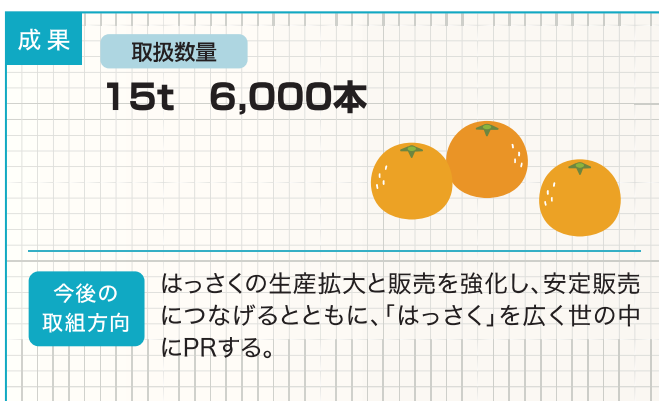
広島県発祥のかんきつ“はっさく”を使用した シロップ「瀬戸田はっさく」の販売開始



広島県発祥のかんきつ「はっさく」を通年でアピールするため、むき身をシロップ漬けにした「瀬戸田はっさく」を発売。果肉のオレンジ色が映える幅広のガラスの瓶詰で、贈答品や展示品としても楽しめるように工夫した。果実約2個分のむき身入りで、そのままでもおいしく食べられる。ヨーグルトやアイスクリーム、サラダの具材としても相性抜群。

目的

瀬戸田で生産されている「はっさく」を広くPRするため、独自商品の開発や瀬戸田地域のブランド価値向上に取り組み、地域振興と観光客誘致、商品開発や販路拡大による生産者の経営安定を図る。



組合員 利用者の声

「歯応えがよく優しい酸味と爽やかな甘みで、子どもから大人まで楽しめる。瓶もとってもおしゃれで毎日の食卓を彩っています。」と好評。

新ブランド

「みよし和牛」発売！

三次和牛改良組合は、令和4年4月に三次市の「ゆめマート三次東店」で、新ブランド「みよし和牛」を新発売した。肥育農家、市や県、JA三次が、8年前から三次産の美味しい牛肉を届けたいと協議を重ね、新ブランドを立ち上げた。三次市で繁殖・肥育し、肉質が4等級以上の三次生まれ三次育ちの肥育牛を販売。今まではふるさと祭等のイベント販売のみだったが、店頭販売は初めての試みとなった。

目的 三次の独自ブランド「みよし和牛」を立ち上げ、三次の畜産振興及び産地化をめざす。



組合員 利用者の声

消費者に対し「みよし和牛」の知名度向上に繋がった。

広島菜漬需要拡大へ

新商品開発・販売

一層の需要拡大に向けて、肉厚で風味豊かな広島菜の外葉を中心に使い、手作業で刻んだ「広島菜漬きざみ」(令和2年発売)のシリーズ商品の開発に力を入れる。荒漬け、中漬けなどの漬け込み方法や調味料を変え、1年以上試作を重ねた。また、食味や価格などの消費動向も調べた。

目的

JAが製造・販売する特産品「広島菜漬」の需要拡大に向けて、新たな商品の開発に取り組む。「広島菜漬きざみ藻塩」「広島菜漬きざみ極細」の販売で需要を拡大し、広島菜の生産拡大と農家所得の向上につなげる。



成果

令和2年度 5,279袋 **30%増** 令和4年度(令和5年2月末現在) 6,889袋

今後の取組方向

加工事業の強みを生かし、広島菜の生産拡大を進める。
JA間連携による加工・販売事業の強化。

組合員 利用者の声

販売強化で広島菜の買取価格の上昇が期待できる。
冬期に広島菜を作付けし、安定収入が見込める。



米の出荷数量の拡大

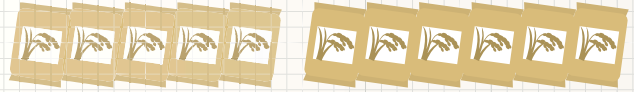
相場より高い価格で買い取る独自買入れ制度に加えて、各農家宅での米集荷の無料化や出荷数量に応じた加算金制度を新設したことにより、ここ数年減少傾向にあった出荷数量が増加した。

目的 米の出荷数量の増加。



成果

令和3年度 **25%増** 令和4年度
5,400袋 → 6,777袋



今後の取組方向

取り組みを強化し、出荷数量の更なる増加をめざす。

組合員 利用者の声

「生産意欲の向上につながる。」「今後も継続してほしい。」と好評。



農業資材の

早期予約割引の取扱拡大

農業資材の予約申込書を年2回、ダイレクトメールで直接組合員へ届けている。営農指導や購買担当者が戸別訪問をして、組合員への営農相談の対応や早期割引価格での農業資材の普及拡大に努めている。

目的 農業資材の普及拡大。



成果

令和3年度 令和4年度
1,673件 → 1,682件



今後の取組方向

JAにしかできない地域に密着したサービスを提供し、地域農業の振興活性化に取り組む。

組合員 利用者の声

「営農指導員が戸別に訪問してくれるので、農薬のことなど気軽に聞いて助かる。」と好評。

道の駅西条「のん太の酒蔵」への 集荷販売を支援



令和4年7月にオープンした中四国最大級となる道の駅の直売所に、JAが地元の新鮮野菜の集荷販売を支援。JAの産直市と共通のバーコードを使用してJA産直市(3店舗)と道の駅に出荷することにより、産直市と道の駅が連携して出荷調整ができ、生産者は売上情報の確認ができるようになった。

目的

農産物の販路拡大と、道の駅利用者への地元新鮮野菜の販売とPRによる農業者の所得増大・生産拡大をめざす。



成果

取扱高(見込み)/1,500万円

※令和4年7月から



今後の取組方向

他の道の駅や直売所にも共通のシステムを導入することで、生産者の出荷先の選択肢を増やしたい。また、今後は集荷拠点としての機能も強化することで管内の生産者の所得向上に努めたい。

組合員 利用者の声

農協のグリーンセンターに出荷すれば産直市や道の駅への出荷が選択できるため、大変助かっている。活用して所得向上につなげたい。

馬鈴しょの買取販売



市場価格に左右されず、安定した所得を得てもらうため、買取を拡大している。

目的

生産者の所得向上。



成果

令和3年度 29t **189%増** 令和4年度(令和5年2月末現在) 84t



今後の取組方向

更に買取を拡大し、生産者の所得向上に努める。

組合員 利用者の声

コンテナで買い取ってくれるので、選別作業や出荷作業が省かれ、労力削減につながった。かつ、安定した所得が得られるので大変うれしい。



大長ブランドの維持・発展



奨励品種のレモン、いしじ温州の苗木の助成による増産や農業関連企業との業務提携、柑橘加工品の新商品開発、多角的販売体制の取り組みとして、柑橘加工品用原材料の直接販売強化。組合員への訪問活動、移動購買車による訪問販売を実施した。

目的 農業者の所得増大、農業生産の拡大、地域の活性化。



成果

107万円

(奨励品種拡大に向けた苗木の助成)



今後の取組方向

訪問活動や地区別座談会等で組合員の声を聞き、地域と一体となったJA運営を実現し、評価していただき、必要な見直しを行う。



組合員 利用者の声

農業者からの要望で作った未収穫期の短縮を目的とした苗(すでに1~2年育成されている苗)の販売について、当初の計画を大幅に上回る数量を販売し、助成を実施した。農業者が減少している中、需要が高いかんきつ類の増産に関心が高まっている。

JA広島北部

農業者の所得増大

[買取・販売体制強化]

産直市巡回



毎週金曜日、営農指導員がJA広島北部管内の産直市(ベジパーク安芸高田・八千代産直市場)を巡回。出荷されている野菜等の荷姿や適正価格、加工品の表示適正などを確認する。スマートフォンで撮影し、指導員同士で情報共有。報告書を作成し、気付きや改善点を報告する。

目的 農業者の所得増大を目的とする。営農指導員が指導者・消費者の立場となり、出荷者へ改善点を伝えるとともに、売れるコツや出荷指導を実施する。



成果

巡回 / 45日

(延べ428回指導) ※令和5年2月末現在



今後の取組方向

来年度も継続して取り組む予定。更なる品質向上に努める。

組合員 利用者の声

出品物に虫食い等があり、営農指導員が出荷者へ防除等の指導・アドバイスをしたことをきっかけに、気軽に気になる点や不明な点を相談しやすくなった。消費者である地域住民からも、野菜の品質が向上してきたと喜ばれている。

「農業生産の拡大」 への取り組み



「農業生産の拡大」に向け、栽培技術の平準化・高度化による安定生産、新規就農者の育成による担い手増加、設備投資支援による担い手の規模拡大等の取り組みを展開しています。

産地化、栽培技術の平準化・高度化

- 農畜産物の安定供給、農地の効率活用、農作業の負担軽減に向け、新たな栽培方法の実証試験等を実施。
- 生産緑地制度にかかる申請支援の実施。
- 循環型農業への取り組み。



新規就農者の育成・担い手支援

- 産地の新たな担い手を育成するため、就農希望者向けの研修を実施。
- 担い手農業者への役職員訪問による、問題早期解決や農業経営の支援の実施。





鶏ふん利用試験現地研修(JA広島市)



無コーティング種子代掻き同時播種(JA広島中央)



農作業受託(JA三次)

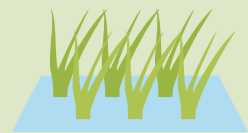
設備投資支援

- 担い手の設備投資を支援するため、機械や施設等導入経費の助成やレンタル制度、共同購入支援等を実施。



作業効率化

- 草刈りやドローン防除・肥料散布の作業をJAが受託。



鳥獣被害軽減

- 鳥獣害防止柵の寄贈や被害対策支援を実施。



えだまめ農業塾(JA三原)



幅広い農業技術習得のための農業塾(JA福山市)



育苗施設のサテライト化(JA庄原)



鶏ふん利用による

収益性向上に向けた取り組み

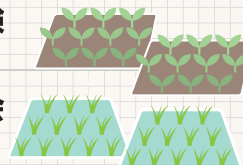
JA広島市は、管内で生産される年間1,700tの発酵鶏ふんを、水稲や野菜、小豆の栽培において肥料としての利用を広げており、生産者と協力して展示圃を設置し、鶏ふん利用による肥効の実証実験や講習会を開催した。

目的 管内で生産される年間1,700tの発酵鶏ふんの利用拡大。



成果

野菜の鶏ふん利用試験
21種類の作型実施。
鶏ふん利用促進研究会
1回開催。



令和3年度の使用面積は50aだったが、生産者の関心が高まり、令和4年度は約13haに広がった。

今後の 取組方向

発酵鶏ふんのペレット化を検討。

組合員 利用者の声

年々収量が低下している。栽培面積を広げることは難しい。収量を上げていく以外に法人経営、ひいては地域を維持することはできないので、この取り組みには期待している。



ひろしま小豆プロジェクト

農家の所得向上および耕作放棄地の解消を目的として、令和2年度に立ち上げたプロジェクト。3年目を迎えた今年は、昨年度の成果を踏まえながら、生産技術の確立、施設・機械の検証、実労働時間や収量などの測定、分析に引き続き取り組んだ。

目的 広島県産の小豆の生産拡大。



成果

令和3年度 1.1ha 1.5t **81%増** 令和4年度 2ha 2.7t



今後の 取組方向

将来的には10ha、10tをめざす。

組合員 利用者の声

小豆の栽培を拡大することで、地域の耕作放棄地の活用につながる。

生産緑地制度



広島市では市街化区域内の農地を計画的に保全し農業を維持するため、「生産緑地制度」が令和2年4月から導入された。令和4年度も生産緑地地区指定の申請に向けた説明会を開き、申請手続きの手法やスケジュールなどを説明した。

目的 市街化区域の農地を計画的に保全、良好な都市環境を作る。



成果 生産緑地地区指定の申請

5件 1.7ha
(広島市伴地区2件・広島市可部地区2件・
広島市東区1件)

**今後の
取組方向**

令和5年度も引続き実施していく。

組合員 利用者の声

生産緑地地区の指定によって税負担も軽減される。今後は、より計画的に農地を維持・管理できるようになると思う。

特A米「恋の予感」ブランド化



令和3年碎米の施肥試験により最高分けつ期と幼穂形成期の間、停滞期(ラグ期)の肥効が収量を左右することの検証結果をふまえ、一発肥料区画と停滞期の肥効をより高めた配合区画、食味を向上させるためタンパク質含量の低減を期待する配合区画で比較し、良質米生産ノウハウを高めた。

目的 お米の販売力向上と消費量アップに向け、「恋の予感」のブランド力を高めるために、増収と食味向上をめざす。



成果 特A連続取得に向け審査中



**今後の
取組方向**

関係機関と連携し、良質米生産に向けての技術課題を改善することで高品質な米産地を確立したい。米コンテストや産直市での販売PRなど消費者PRも継続して実施していきたい。

組合員 利用者の声

「恋の予感」が特Aを取得したことで消費者への良いPRとなった。生産する我々も大きな励みとなった。



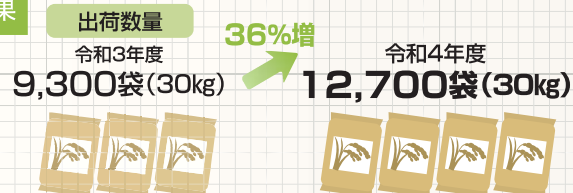
新品種「つきあかり」の導入

「こいもみじ」にかわる極早生品種として「つきあかり」を稲作層に掲載し、作付誘導を行った。3年間に渡る試験栽培で品種特性や管理方法を確立し、育苗やライスセンターでの対応を含め、営農指導の充実を図った。

目的 極早生品種の収量・品質向上に向けた品種転換。



成果



今後の取組方向

「つきあかり」「こしひかり」「あきさかり」の3品種を基軸に作期分散を行い、農作業の効率化による品質の安定と栽培管理の徹底を図る。収穫量の増大による農家手取り向上も視野に、作付面積を増やしていく。

組合員 利用者の声

収量が600kg/10aを超える生産者も多く、次年度の作付面積を増やす計画を立てている。

JA三次



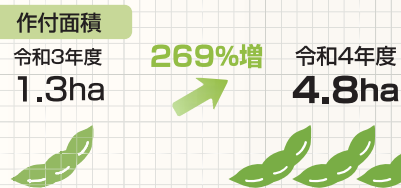
もち麦など大麦を収穫した後の水田を活用した枝豆栽培

30の農事組合法人が所属するJA三次集落法人グループでは、令和4年4月下旬から6月中旬にかけて、6法人で合計4.8haの面積に10aあたり1万4千粒の枝豆種子の播種作業を実施した。大麦の収穫後の圃場を活用することでワラの腐食による肥沃効果がある他、溝立てといった排水対策も不要となる。

目的 農事組合法人や大型農家を中心に大型機械の貸し出しを実施し、播種から収穫作業までを機械作業中心に行うことで作業面の大幅なコスト削減や水稲栽培のみに依存しない多角化経営をめざす。



成果



今後の取組方向

今後もリレー出荷体制構築に向けた新たな振興品目として関係機関と連携しながら、産地化をめざす。

組合員 利用者の声

水稲だけの一辺倒の経営ではなく、多角的な経営を進めることができる。また、高収益が見込める新たな品目としてだけでなく、作業面でも機械で省力的に作業ができる。

ピーマン5年で面積3倍 長期栽培で安定収入



軽量で収穫負担の少ない点などを考え、定年退職者や若手生産者の複合品目として提案。平成28年から固定価格で買い取る品種も試験的に導入した。ネットや支柱は既存資材の活用法などを提案し、初期投資を抑える。定期的な研修や目合わせなどで、病害虫防除や肥培管理などの情報を共有。出荷規格表を見直し、従来より明確にした。

目的

需要が多く、他産地も生産が減っているピーマンを地域品目に設定して振興。生産部会で技術共有し、7月～11月までの長期安定出荷で、農業生産の拡大と農家所得の向上につなげる。



成果



今後の取組方向

生産者を増やし、栽培を広げる。

組合員 利用者の声

他品目より手間がかからず、無理なく栽培できる。部会の存在も心強い。

多収米「つきあかり」試験 業務用米で経営安定へ



多収米品種「つきあかり」の試験栽培を管内5.6haで実施した。「あきたこまち」より1割ほど多い、10a当たり660kgの収量が見込める。標高220～570mの5カ所で、JAと県、JA全農ひろしまが定期的に調査し、収穫した米の品質や収量を調べた。

目的

外食・中食向けに固定価格で複数年契約する業務用米品種を増やし、農業法人や大規模生産者の経営安定をめざす。



成果

5.6ha



今後の取組方向

収量やコスト、実需者の要望を検討し、優位性が認められれば令和5年産から複数年契約を予定する。

組合員 利用者の声

米の需給環境は厳しく予測ができないが、複数年契約を結ぶ業務用米があれば経営安定につながる。



育苗施設サテライト化 施設ごとに機能集約

管内は県内有数の稲作地域で、令和4年度は約42,000 haで水稲の作付けを実施。種もみの温湯消毒装置がある庄原育苗施設で播種し、播種後3～4日の芽出し苗を他施設に転送した。令和4年は庄原市口和地区への転送を始めた。

目的

育苗施設ごとに機能を集約するサテライト化を進め、コストを削減。予約価格1箱当たり660円を維持し、地域の良質米生産を支える。



成果

庄原育苗施設を約3,700㎡造成してハウス10棟を増設した。
水稲苗箱11,600箱増やしてコストを削減し、農家の負担を減らした。



今後の取組方向

計画的なサテライト化で資材費や人件費を抑える。

組合員 利用者の声

原油価格や資材価格の高騰、人件費などが値上がりする中、価格の据え置きは助かる。
種子の温湯消毒で環境に優しい米作りができる(付加価値が高められる)。



ハウス高温対策実証 遮光資材で省力化

県東部農業技術指導所や府中市などと連携し、JA全農ひろしま「チャレンジファーム広島・上下農場」で実施。ドローン、動力噴霧機、資材被覆、無処理のハウスと屋外の5カ所の温度、照度を調べ、アスパラガスの収量や品質を比較した。被覆や片付けなどの労働時間と費用を計算し、処理後の環境をまとめた。

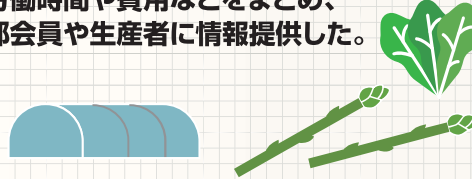
目的

地球温暖化で夏場の酷暑など異常気象が続き、冷涼地もアスパラガスやハウレンソウなどで減収、品質低下などの影響が出てきた。ハウス上部に遮光資材を散布し、コストなどをまとめ、普及可能な昇温抑制技術を確認する。



成果

労働時間や費用などをまとめ、
部会員や生産者に情報提供した。



今後の取組方向

作業性や費用対効果などを分析し、的確な提案で労力軽減と生産拡大につなげる。

組合員 利用者の声

ハウス栽培は、夏場の高温対策が重要だ。
実証で作業性や費用対効果などを比較できる。



化学肥料代替コスト削減

鶏ふん堆肥使い試験

広島県の採卵鶏は飼養羽数が全国5位で、年間40万tの鶏ふんが発生することに着目した。県東部農業技術指導所が協力し、約30aで実証。10日ごとに生育を調べ、結球時期、収穫時期を確認する。収穫物の重量、扁平度や結球緊度、圃場全体の製品率などの調査も計画した。

目的 肥料価格の高騰に対応するため、キャベツとハクサイで鶏ふん堆肥を使った施肥試験を始めた。化学肥料からの置き換えを視野に、肥料コスト削減による所得向上をめざす。



成果

鶏ふん堆肥使用試験

30a



今後の
取組方向

化学肥料からの置き換えを視野に、肥料コスト削減による所得向上をめざす。

組合員 利用者の声

資材価格が高騰し、コストの削減が急務。
成分の高い鶏ふんが化学肥料の代替になれば、環境に配慮した持続可能な栽培体系が構築できる。



役職員による担い手訪問

組合員の「声を聴き、声に応える」徹底した話合い実践運動の一環として、認定農業者、青壮年連盟盟友など担い手農家を訪問し、JAに対する要望・期待を聞き取り、農業経営への課題を解決する。

目的 担い手農業者をJA役職員が訪問して経営状況や意見を交わし、農業者の早期問題解決・安定した農業経営を支援する。

成果

令和3年度 認定農業者6名 → 令和4年度 担い手農業者11名
(内認定農業者8名)



今後の
取組方向

農業者と直接会話することでJAに対する要望・期待を聞き取り、経営支援に依っていきたい。

組合員 利用者の声

JAの支援・協力により、経営も軌道に乗ってきた。
これからも支援をお願いしたい。



女性限定

初めての米づくり講座

男性と女性では農業経験に差があることや、学びにくいと感じる女性の声から、女性限定の初めての米づくり講座を開講。月1回、田植え、防除、収穫など、作業時期に合わせて講義。草刈りの仕方や農薬・機械の使い方などのポイントを踏まえながら細やかに伝えた。

目的 農業の継承。
女性の農業参加を支援。



成果 41人(募集人数の約2.5倍の申込)



今後の取組方向 令和5年度も引き続き、女性限定で初めての米づくり講座を開催する。

組合員 利用者の声

農家ではないが、米づくりに関心があり参加した。基礎から学べるのでありがたい。実家の農業が心配なので参加した。

「柑橘・せとだ柑橘・白ねぎ・落葉果樹・

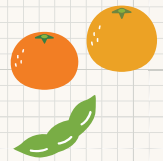
えだまめ」農業塾開講

定年帰農者や新規栽培者など、栽培未経験者や技術習得をめざす方を対象に農業塾を開催し、栽培管理をはじめ肥料・農薬の基本的な知識を学ぶ講義や実習を行い、就農支援・技術指導に取り組んだ。また、今年度より新たな生産振興品目としてえだまめの生産拡大に取り組んでおり、えだまめ栽培実証圃場での品種試験や技術実証と併せ、新たに「えだまめ農業塾」を開講した。

目的 新たな担い手の確保・育成と農業生産の拡大。



成果 「柑橘農業塾」全6回
「せとだ柑橘農業塾」全12回
「落葉果樹農業塾」全6回
「白ねぎ農業塾」全6回
「えだまめ農業塾」全5回開催



今後の取組方向 次年度も引き続き、農業塾の開催に努める。

組合員 利用者の声

日々勉強し、試行錯誤をしながら、より良い農産物を栽培できるように取り組んでいきます。





農業塾の開催による 様々な担い手の育成支援

農業塾の受講生をふれあい市などの直売所への出荷者へと育成し、将来的には販売農家へのステップアップをめざして育成支援する。

目的

管内8グリーンセンターで農業塾を開催。多様な担い手への幅広い農業技術の習得支援、JAの直売所などへの出荷者を育成する。また、栽培技術の向上と地域資源の活用を進め、地域農業の活性化に努める。



成果

農業塾生からふれあい市出荷者の育成

32名



※令和5年2月末現在

今後の 取組方向

半農半Xなどの多様な担い手の育成支援を行うため、今後も継続して取り組む。



組合員 利用者の声

農業塾へ参加し、栽培技術はもとより、農業資材に関する情報も大変参考となった。



レンタル農機具の利用拡大

購入すると高額なトラクターやコンバイン・肥料散布機などの農業機械を、安価な利用料で貸し出すレンタル農機具事業に取り組んでいる。

目的

生産者の生産コスト低減による所得増大をめざす。



成果

利用者数

令和3年度

59名

38%増

令和4年度

82名



今後の 取組方向

レンタル対象の農機具を増やす。



組合員 利用者の声

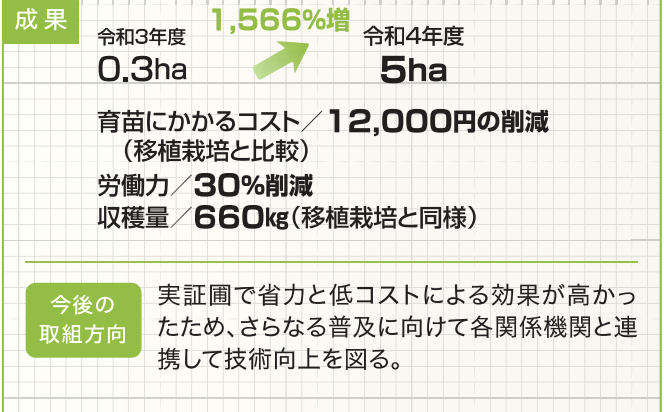
「高額な農機具を気軽にレンタルすることができるので、農作業がはかどる。」「農機具の操作方法などをJAに教えてもらいながら使用できるので安心。」と好評。



水稻無コーティング 代掻き同時播種

トラクターに専用播種機をセットして貸し出し、代掻きと同時に催芽処理した無コーティングの種もみをまくことで、発芽率の向上を図った。苗の供給がいないため、慣れれば一人で作業を行うことが可能となる。

目的 無コーティング湛水直播栽培専用播種機の導入により、コスト軽減と育苗や苗の運搬などの労力軽減を図る。



組合員 利用者の声

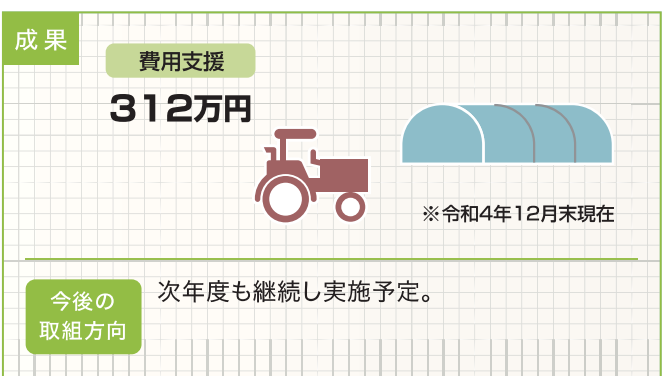
労働力の大幅な削減と、移植栽培と比較して同等程度の収穫ができたため、継続して取り組みたい。



農業振興支援事業

農業機械等の取得にかかる費用支援(事業費の10%を上限)、農業施設にかかる費用支援(事業費の18%を上限)、鳥獣害対策にかかる費用支援(事業費の18%を上限)、認定新規就農者の生産資材・出荷資材にかかる費用支援(3カ年、事業費の10%を上限)。

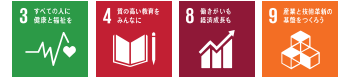
目的 管内組合員が構成する集落営農組織及び担い手等の育成や、営農振興施設並びに鳥獣害対策に関わる地域農業の生産・保全・維持を図るため、農業経営に必要な農業機械並びに生産拡大に必要な資材等への支援を行い、農業生産力の拡大を図り、農業者の所得増大に資する。



組合員 利用者の声

事業の利用で作業機を導入し、省力化と規模拡大が可能になった。施設の更新を行い、品質の維持・向上につながった。

ドローン(小型無人飛行機)による 水稲防除の実施




農業者の高齢化が進んだ中山間地域において、適期の水稲防除の実施と作業の省力化・軽労化を実現するため、受益農業者・受益対象面積の拡大を図る。

目的 水稲防除の省力化、軽労化。



成果	受託地域	大竹市(松が原地域、栗谷地域)
	受託農家数	45戸
	受託面積	11.5ha

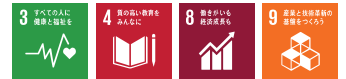


今後の取組方向 受託農家・面積の拡大を図っていく。

組合員 利用者の声

防除時期が夏場であったため、ドローン散布をしてもらうことで防除作業が楽になり、防除が適期にできた。




水田ドローン本田防除 受託事業



JA全農ひろしま・ドローン専門業者と連携し、農作業の省力化に取り組んだ。

目的 農作業省力化に資する取り組み。



成果	令和3年度	768ha	15%増 	令和4年度	887ha
					

今後の取組方向 引き続き継続して事業を展開していく予定。

組合員 利用者の声

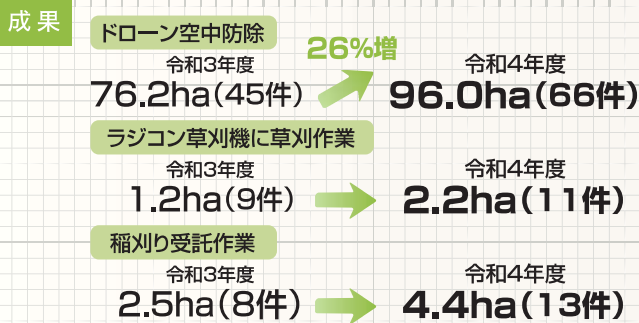
暑い時期の作業になるため、委託することでしんどい作業がなくなり、楽になった。

農作業受託



「ドローン」を活用した水稻空中防除の実施の他、「ラジコン草刈機」の草刈作業や稲刈り受託作業にも取り組み、農作業受委託の体制強化を図った。

目的 生産者の作業負担軽減。



今後の取組方向 中山間地域が抱える課題解決に向け、一時的に労力が必要となる時期の農作業をサポートするとともに、今後も様々なニーズに応えられるようICT技術を活用しながら地域農業に密着した取り組みを進めていく。

組合員 利用者の声

またドローンの委託作業を依頼したい。大変助かっている。

箱わな贈呈



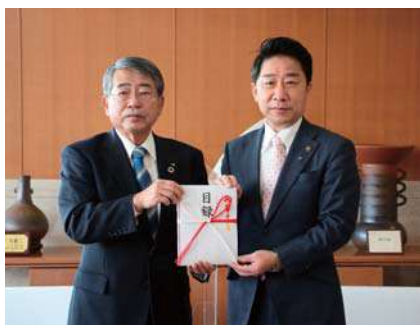
イノシシ捕獲用の箱わなを廿日市市、大竹市へ寄贈することにより、捕獲団体、農業者への捕獲支援対策を実施。

目的 イノシシによる農作物への被害が多発し甚大な影響を与えているため、農業者の営農意欲の低下防止と耕作放棄地の増加原因の解消。



組合員 利用者の声

市街地での子どもへの被害も心配されている。しっかりと活用していきたい。中山間地域を中心に設置し、地域住民と連携して農作物の被害防止に活用する。



鳥獣被害対策



生産者にとって深刻な問題となっている鳥獣被害の防止に役立ててもらうために、鳥獣捕獲用「箱わな」を安芸地区猟友会に寄贈。営農店舗では、各種鳥獣害対策資材を取り揃え、鳥獣被害の相談にも対応している。

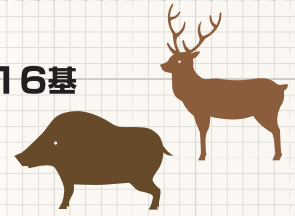
目的 生産者の営農意欲向上。



成果

寄贈数

安芸地区猟友会へ16基

今後の
取組方向

今後も鳥獣被害防止に向けた支援を強化する。

組合員 利用者の声

被害は年々深刻化している。今後もJAと共に被害防止に取り組んでいきたい。

「地域の活性化」 への取り組み



「地域の活性化」に向け、広島県農業の応援団づくりに向けた食農教育、安心して暮らせる豊かな地域社会の実現に向けたライフラインや高齢者福祉等の取り組みを展開しています。

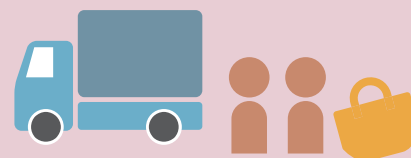
食農教育等

- 農作業体験等の食農教育活動の実施。
- 牛乳消費拡大に向け、子ども食堂へ牛乳等の提供。



ライフラインの確保

- 移動金融車や移動購買車を運行し、地域のライフラインを確保。地域の交流の場や高齢者の安否確認の場としても活用。





小学校への出張授業(JA佐伯中央)



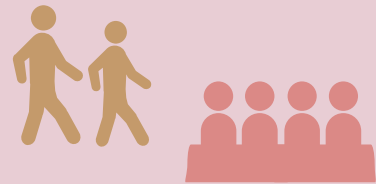
移動金融店舗(JA安芸)



サツマイモ収穫体験(JA三原)

地域維持

- 健康意識の醸成や地域の交流の場として「健康大学」を定期開催。
- 健康増進イベントの開催。
- 地域活動等の課題整理・課題解決に向けての取り組み。



地域交流等

- 作品展覧会やオンラインゲーム等、コロナ禍でも楽しめるイベントを企画。
- 情報発信資材等を活用した、組合員・利用者との交流。
- 組合員・地域住民との交流の場の設置。



買い物困難者を守る「移動スーパー」(JA庄原)



ちゃぐりんフェスタ(JA呉)



自転車交通安全教室(JA共済連広島)

安佐南区

海外援助米生産事業

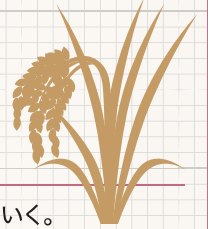
市民ボランティアと、安佐南区沼田町吉山の地元町内会や営農集団、JA広島市、行政、ライオンズクラブなどが協力して、食料不足の国へ送るための米づくりを行う「安佐南区海外援助米生産事業」は、市民に海外援助米生産のボランティア活動の場を提供し、市民の自発的な国際社会への貢献活動を支援すると共に、都市住民と農村住民の交流、都市と農村が共存する潤いのあるまちづくりを目的に行うもの。

目的 地域団体と協力してアフリカにお米を送る活動を通じた地域の活性化。



成果

参加者345名(今年で24回目)



今後の取組方向

令和5年度も引続き実施していく。

組合員 利用者の声

収穫したお米がマリ共和国へ届き、人を助けることにつながっていることに共感した。来年も田植えから参加したい。

食農教育

小学校への出張授業・畑の学校

年間を通したバケツ稲栽培と農に係わる体験学習を行った。

目的 体験や学習を通じて農業の魅力や食の大切さを伝え、地産地消を次世代へ伝えていく。



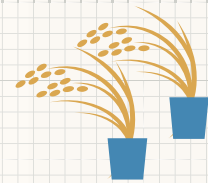
成果

バケツ稲栽培授業

小学校4校
(年間4回程度)

畑の学校

年間3回開講 (①ナスの定植 ②サツマイモの植付)
③みそづくり



今後の取組方向

令和5年度も「バケツ稲栽培授業」「畑の学校」は継続していきたい。

組合員 利用者の声

早く自分で作った味噌で味噌汁が飲みたい。お米を作るのは大変だと思いました。農家に感謝しました。畑を活用して野菜の栽培を勉強したい。

ちゃぐりんフェスタ



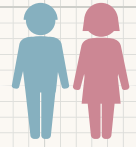
『ちゃぐりん』愛読者である江田島市の放課後児童クラブ職員の方から、児童向けに食育に関する学習会開催の要望をいただき、この機会をまたとない好機と捉えて学習会を企画した。

目的 学習会を通じて未来を担う子どもたちに食の大切さを伝え、JAを身近に感じてもらい、知ってもらうこと。



成果

放課後児童クラブ:7会場
参加人数:児童180名
(1年生~6年生)



今後の取組方向

開催希望があれば、引き続き継続していく予定。

組合員 利用者の声

栄養の話はクイズ形式で、子どもたちも飽きることなく良かった。
工作も取り入れてくれていたのが良かった。
車に例えた栄養の話が分かりやすかった。
赤、黄、緑の食べ物を食べることが大切。

親子で農業体験2022



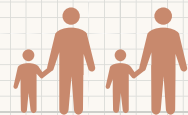
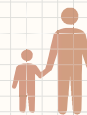
JA三原管内の小学生親子を対象に、農業体験を通じて「食と農」の大切さを学んでもらうことを目的に、全6回の農業体験を開催した。

目的 田植えや稲刈り、サツマイモの植え付けと収穫などの体験を通じて「収穫する喜び・食の大切さ・農業の大切さ」について学ぶ。



成果

令和3年度 168名参加 / 計3回開催
113%増
令和4年度 359名参加 / 計6回開催



今後の取組方向

次年度も引き続き農業体験を開催する予定。

組合員 利用者の声

<参加した子どもたちの感想>
初めて田植えをした。苗をひとつずつ植えるのは大変だったけど、楽しかった。
採れたてのトマトはとても甘くておいしかった。枝豆の収穫は初めての体験だったので、とても楽しかった。

食農教育活動

「ちゃぐりんキッズクラブ」の実施

稲づくり、サツマイモ、ピオーネ、ヤマノイモ等、地域によって特色ある農産物から、食農体験だけでなく、地域の特産品にも触れていただく。また、所轄の支店職員だけでなく、JA女性部、農青連、地域住民なども参加され、参加児童との交流の機会にもなっている。

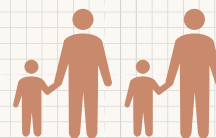
目的 食と農の大切さを伝える。



成果

参加者

17会場 1,553名



今後の取組方向

今後も地域ごとに小学校と連携し、田植えやサツマイモの植え付け体験等を行う食農教育活動「ちゃぐりんキッズクラブ」を展開し、次世代の子どもたちに農業に触れてもらう機会を提供していく。

組合員 利用者の声

農家の人の大変さや苦労がわかった。お米や野菜づくりに興味が持てた。
地域の子ども達との交流の機会にもなり、今後も継続してほしい。

学校給食へ三次産もち麦使用

「もち麦パン」無償提供

三次市の小・中学校の学校給食に、三次産もち麦を使用した「もち麦パン」を無償で配布した。給食の前には、当番の児童から収穫時期や栄養といった三次産もち麦の特徴も紹介され、味わうだけでなくもち麦の栽培や収穫についても理解を深めるきっかけづくりを行った。

目的 三次産もち麦の消費拡大。
食に関心を持ってもらう。



成果

三次市の小・中学校33校に、
無償で合計3,640個配布。



今後の取組方向

今後もJA・市を含め、関係機関と連携した食育の取り組みを進めるとともに、販路拡大に向けて新たな加工品開発を進めていく。

組合員 利用者の声

弾力があり、もっちりフワフワ食感で美味しい。

食農教育プロジェクト

「起農みらい塾」

学習塾運営会社、広告代理店と連携し、広島県内の小学生を対象に、農産物の生産・販売活動から収支まで体系的に学べるようカリキュラム化。中国放送の密着取材、SNS等を通じて取り組みを内外に広く発信した。

目的

ビジネス型体験学習を通じて、子どもたちの起業家的な素養や行動能力を高めるために実施。



成果

令和4年5月から募集を開始後、約3週間で定員(20名)に達した。

対外発信の結果、ホームページ「起農みらい塾」は、令和4年6月～11月で計3,261件のアクセスがあり、特に25～44歳の年齢層のアクセスが70.3%と、若年層、子育て世代へのPR強化に繋がった。

今後の取組方向

令和5年度も本プロジェクトを継続予定。

組合員 利用者の声

塾生の保護者向けにアンケートを実施、回答者全員から塾の取り組みに「非常に満足」と回答があった。

「モノの価値を考えるようになった」「食に興味をもつようになった」「自分の考えた事を言えるようになった」など子供の成長を実感するコメントが多数あった。

「次世代の教育に本気で取り組んでおり、身近に感じた」「農業に関する色んな活動をしており、JAの役割は大きい」等、JAグループのイメージアップに寄与することができた。

JA広島中央会

「牛乳消費拡大、応援」に伴う「広島子ども

食堂支援センター」への牛乳提供

令和4年12月、広島県内18カ所の「子ども食堂」へ広島県産の牛乳やプリンを無償提供した。今年度は牛乳・プリン購入費用として、同年11月に広島市内で開催された子ども・家族向けイベントのJAグループ広島企画ブースでの売上23,700円全額を充当した。

目的

年末年始に生乳の消費量が落ち込み、廃棄の恐れがあるとの報道を受け、子どもの健康増進と牛乳消費拡大および県内酪農家の応援のため。

成果

令和3年度
牛乳900本提供(県内14カ所)

令和4年度
牛乳約1,200本
プリン約1,200個提供
(県内18カ所)



今後の取組方向

生乳の消費動向により、令和5年度も同様に実施検討。

組合員 利用者の声

クリスマスに、コクのある牛乳を美味しくいただけました。

社会的な経験としても貴重な1日になった。子育て家庭の皆様にご大変喜んでいただいた。子どもたちに、いいプレゼントになった。ありがたいプレゼント。生産者の助けにもなればうれしい。



第2回 おうちで「お米」を作ってみよう！

JAグループ広島「バケツ稲づくり」インスタグラムキャンペーン



広島県内在住40名にバケツ稲セットを配布。生育過程をインスタグラムに投稿していただく。既定のハッシュタグを付けることで、参加者以外にも周知を図る。今年度は、投稿キャンペーンと応援キャンペーンを設定。参加者の投稿に「いいね」をした方の中から抽選で毎月2名に広島県産米をプレゼントする。

目的

「バケツで稲を育てる」という一連の作業を通じて、①「ごはん」を中心とした日本型食生活や国産農畜産物への関心を高めてもらうこと、②本キャンペーンを地域貢献ツールとして活用し、JAと地域のつながりを強化すること。

成果

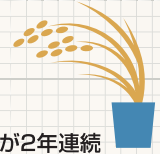
キャンペーン参加者

令和3年度 30名 → 令和4年度 40名

投稿キャンペーンでは、廿日市市在住の中学生が2年連続でグランプリを受賞。松本裕見子さんと大松しんじさんのYouTubeチャンネル「しろめし」に出演し、表彰・インタビューをするとともに、インスタグラム以外でも取り組みを発進した。

今後の取組方向

令和5年度も同様に実施。



組合員 利用者の声

収穫したお米は家族で食べた。美味しいって言ってもらえた。

バケツ稲を育てると、農家の方の大変さがよくわかる。

あらためて食事ができることの幸せを感じた。これからは、一粒一粒を今まで以上に大切に食べたい。

JA安芸

移動金融店舗車

「ふれあい号」の運行



移動金融店舗車「ふれあい号」を運行して、金融サービスの提供や専任職員による相談業務の対応を行う。

目的

金融店舗を廃止した地域の組合員・利用者の利便性の確保。

成果

巡回場所

令和3年度 週2回 3カ所 → 令和4年度(12月末現在) 週2回 5カ所

利用者数

令和3年度 908名 → 令和4年度(12月末現在) 1,114名 (22%増)

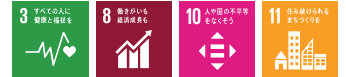
今後の取組方向

組合員や利用者の利便性の向上とライフラインの確保のため、取り組みを強化していく。また、高齢者の安否確認の役割や地域交流の場としての利用も図る。

組合員 利用者の声

「遠い支店まで行かなくていいので便利。」「気軽に相談をすることができるので安心。」と好評。





移動スーパー運行開始 買い物困難者の生活守る

Aコープ西日本と「移動販売事業モデル実施委託契約」を締結し、県内で始めて事業主体となる。車両はJA職員が運転し、3コース約90カ所を週6日間運行する。Aコープの生鮮食品や総菜、飲料、日用品など約400品目、約1,000点を運ぶ。

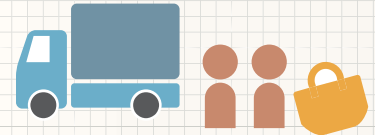
目的

庄原市総領町で移動スーパー「とくし丸」を運行し、中山間地域で運転免許を持たない高齢者ら買い物困難者の生活を守る。利用者の見守り役として地域を支える。



成果

1カ月当たり延べ650名ほどの
利用があり、地域を支えている。



今後の 取組方向

高齢者の単身世帯が増えており、定期訪問で利用者の見守り。
個別注文の受付による利便性の向上。

組合員 利用者の声

運転免許を返納し、一人で買い物に出かけるのが難しくなった。
家の近くまで来てくれて、非常に便利。



JA佐伯中央健康増進ウォーキング 「春の栗谷を歩く」

大竹市マロンの里で開催。
JA管内の組合員・地域住民を参加対象者として、マロンの里～三倉山登山口間を、7kmと3kmのコースを設定してウォーキングを行った。

目的

組合員・地域の皆さまの健康増進、地域の活性化。

成果

参加者 100名



今後の 取組方向

次年度も実施計画を検討したい。

組合員 利用者の声

楽しく歩きました。
休憩所の苺がおいしかったです。





支店を拠点に

「健康大学」の開校

各支店において「健康大学」を開校し、料理や手芸、健康講座や体操などを実施。仲間づくりができる地域の拠り所として地域の活性化に貢献している。

目的 地域住民の健康と暮らしを守り、地域の活性化につなげる。



成果

13校開校
377名の参加



今後の
取組方向

参加者の興味のある講座や新しい活動に展開を広がっていく。

組合員 利用者の声

「仲間と顔を合わせて活動する健康大学を毎月楽しみにしている。」
「地域の情報交換の場や見守りにつながっている。」と好評。



青壮年連盟が政策集を作成

県内のJA青年組織として初めて「ポリシーブック(政策集)」の作成を始めた。営農や地域活動の課題や疑問点などを整理し、解決策を「自助」「共助」「公助」の視点で検討。単年度の活動計画に取り入れて継続的に改善し、組織と地域の活性化につなげる。

目的 行事のマンネリ化や新型コロナウイルス禍による活動中止、世代交代による部員の意識統一などが課題となっていた。活動の見直しや意欲向上に向けて部員同士で解決策を議論し、活動に取り組む。

今後の
取組方向

意識統一を図り、地域の課題解決に向けて活動する。

組合員 利用者の声

「ポリシーブック」作成で、活動の意義が明確になる。





自転車交通安全教室

令和3年度の広島県の交通事故のうち約2割が自転車による事故であるため、県内の中学生、高校生を対象に、広島県警察本部と連携し、交通事故の実演(スタントマン)により、交通事故の恐ろしさと安全な自転車利用の必要性を伝えた。

目的 交通事故のない安全で安心して暮らせる地域づくり。

成果

広島県内の4校で
実施(中学校・高校)



今後の
取組方向

令和5年度は、広島県内の4校で実施予定。



組合員 利用者の声

交通事故の恐ろしさ、ヘルメットの大切さを改めて知ることができた。今日見たような事故に遭わないように気をつけたい。もし自分だったら、交通安全について改めて見直す機会となった。事故を未然に防げるよう意識をもちたい。

JA佐伯中央

地域の活性化

[地域交流等]



JA佐伯中央

フォトコンテスト

管内の魅力ある農業・風景をテーマにした題材のフォトコンテストを実施して、入選作品からJAオリジナルカレンダーへ活用して組合員・地域へ配布。

全応募作品を産直市場「よりん菜」と「マロンの里」で展示した。

目的 管内外の組合員・地域住民から管内の四季折々の地域や自然、農の有る風景写真を募集して、コンテストを開催。入選写真の広報誌材への活用と作品展の実施。

成果

応募者**34名** 応募作品**93点**

令和4年12月 / マロンの里で作品展

令和5年1月 / よりん菜で作品展

JAカレンダー：11,700部作成



組合員 利用者の声

最優秀賞に選ばれてとてもうれしい。今後も写真を通して地域の魅力を伝えたい。

「地域を元気に」

廿日市市と連携したカーブ支援

新しくカーブ球団へ入団した選手に歓迎と激励を込めて、廿日市市と連携して、廿日市市産のバラ、JA佐伯中央いちご部会のいちごを贈呈した。

目的 コロナ禍の影響を受ける農業生産の支援と、プロ野球新入団選手への激励。



成果

JA佐伯中央といちご部会で
いちご10箱(40パック)贈呈



今後の
取組方向

次年度も継続して実施していきたい。

組合員 利用者の声

大野地域の住民の一員になったことを誇りに思う。

支店協同活動

全支店による「支店だより」の発行。
支店単位での小学校・保育園、地域住民を対象に食農教育(田植え・稲刈り・野菜作り・芋掘り)の実践。

目的 JAの事業・活動に参加を募り、実践を通して、次世代の子ども・地域住民との結びつき、強化を図る。



成果

支店だより発行

令和4年度
(令和5年2月末現在) **13支店 52回**

イベント活動

令和4年度
(令和5年2月末現在) **10支店 38企画**

今後の
取組方向

令和5年度も全支店で「支店だより」の発行、各種イベントの開催、地域イベントへの参加予定。

組合員 利用者の声

何でも手に入る時代だからこそ、自分で収穫して食べる経験を大事にしてほしい。
農業の魅力や大変さを知るきっかけになれば、子どもたちの将来に生かされるとうれしい。





園児作品展の実施

管内の幼稚園と保育園の園児を対象に、園児作品展を実施。模造紙に折り紙などを使って作る園児の作品を2カ月に1作品募集し、支店に展示している。1年間の作品を掲載したカレンダーを作成して幼稚園と保育園に寄贈する。

目的 次世代層の地域住民にJAを知ってもらい、身近な存在として親しみを持ってもらうため。



成果

9園参加



今後の
取組方向

地域に必要とされるJAをめざし、次世代層とのきずなづくりの強化を図る。

組合員 利用者の声

「JAを知るきっかけづくりになった。」「JAに足を運びやすくなった。」と好評。



JA三原カレンダー

フォトコンテスト

組合員・地域住民から、管内の四季折々の自然や農業、地域への愛が感じられる風景をテーマに写真を募集して、フォトコンテストを開催した。応募いただいた作品は産直市「やさふれあい市場三原店」へ展示し、入選者には景品として管内特産物を贈呈した。また、入選作品を用いて「JA三原カレンダー」を作成し、管内の組合員・利用者に配布する等、広報資材として活用した。

目的 地域住民にJAを知ってもらい、地域とのつながりの強化を図る。



成果

応募人数

21名

応募作品

40点

カレンダー発行部数

12,750部



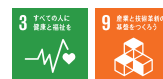
今後の
取組方向

地域とのつながり強化を図るため、フォトコンテストなど各種イベントの開催を予定。

組合員 利用者の声

フォトコンテストを通じてJAを身近に感じることができた。

写真を通じて、『地元の魅力』『農』に興味や関心を持つきっかけとなることを願う。



JA三次キッズ

謎解きイベントの開催

今年は11月に開催したJA三次ふるさと祭をゲームのメインテーマに設定。三次産農産物や伝統芸能等、さらに地域にスポットを当てた内容とした。祭に出演した神楽や展示されていたラジコン式草刈り機等を紹介し、ふるさと祭に足を運べなかった方も、クイズに参加しながら臨場感を味わえる仕様にした。

目的

地域住民・組合員・利用者・次世代(児童)との交流の機会を創出。



成果

アクセス数

899件



今後の取組方向

今後も次世代層にJAや地域農業をより身近な存在として感じてもらうため、地域密着型のイベントに取り組んでいく。

組合員 利用者の声

またプレイしたい。
三次の食や文化を知ることができた。

JA三次



JA三次ふるさと祭 食と農の祭典

グリーンフェスタ2022の開催

地域の食材や加工品を販売。消費者へ地産地消のPRも兼ねて実施した。地域の特産品販売や食と農の魅力を提案するブース等、30団体の出店があった。食農体験学習の発表の場として、「かべ新聞コンクール」、「かべ新聞展示」等、食農教育の大切さをアピールする企画もあり、「食」と「農」について理解を深めた。

目的

消費者と生産者が参加し交流することで、JAの事業・活動に対する関心・理解を深めることを目的とする。



成果

来場者数

約3,000名

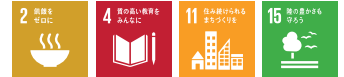


今後の取組方向

今後も三次産のPRを含め、生産者と消費者・地域住民の交流の機会として継続的に取り組んでいく。

組合員 利用者の声

三次産野菜や特産加工品など盛り沢山の出店ブースと、和太鼓の演奏や神楽など迫力あるステージで、大満足でした。



食農Fes～あなたと野菜どんな物語がありますか～

JA広島農青連とJA広島県女性協の両組織は「食」をテーマとして、食の大切さと食を支える農の役割を知ってもらうため、小学生以下の児童及びその親世代を対象に野菜の寄せ植え教室や食農教育紙芝居等の親子イベントを実施した。また、里芋親芋コロッケ、県産米粉ピザ、杵つき餅の販売を行い、地産地消の推進も図った。両組織はJA組織活動の理解促進、構成員の拡大のために今後も合同イベントを継続して行おう。



今後の取組方向

今後も継続予定。



組合員 利用者の声

- ・初めての野菜寄せ植え体験で、これから大きくなり食べるのが楽しみ。
- ・子供と一緒に土に触れあうこともないので、良い体験となった。
- ・声優さんの読み聞かせは迫力があった。
- ・里芋親芋コロッケや広島県産米粉ピザは普段見かけないし、とても美味しかった。
- ・餅つきを初めてみた子供たちがとても喜んだ。



JA・連合会	タイトル	テーマ	ページ
JA広島市	鶏ふん利用による収益性向上に向けた取り組み	農業者の所得増大	28
	ひろしま小豆プロジェクト	農業生産の拡大	28
	生産緑地制度	農業生産の拡大	29
	安佐南区海外援助米生産事業	地域の活性化	42
JA佐伯中央	JA産直ふれあい市場「よりん菜」の集客イベント	農業者の所得増大 農業生産の拡大 地域の活性化	17
	役職員による担い手訪問	農業者の所得増大	33
	ドローン(小型無人飛行機)による水稲防除の実施	農業生産の拡大	37
	箱わな贈呈	農業者の所得増大 農業生産の拡大 地域の活性化	38
	食農教育 小学校へ出張授業・畑の学校	地域の活性化	42
	JA佐伯中央健康増進ウォーキング「春の栗谷を歩く」		47
	JA佐伯中央 フォトコンテスト		49
	「地域を元気に」廿日市市と連携したカーブ支援	50	
	支店協同活動	50	
JA安芸	産直市の活性化	農業者の所得増大	17
	米の出荷数量の拡大		23
	農業資材の早期予約割引の取扱拡大		23
	レンタル農機具の利用拡大	農業生産の拡大	35
	鳥獣被害対策	39	
	移動金融店舗車「ふれあい号」の運行	地域の活性化	46
	支店を拠点に「健康大学」の開校		48
	園児作品展の実施		51
JA呉	水田ドローン本田防除受託事業	農業生産の拡大	37
	ちやぐりんフェスタ	地域の活性化	43
JA広島中央	碗米チェンジ	農業者の所得増大	18
	道の駅西条「のん太の酒蔵」への集荷販売を支援	24	
	特A米「恋の予感」ブランド化	農業者の所得増大 農業生産の拡大	29
	女性限定初めての米づくり講座	農業生産の拡大	34
	水稲無コーティング代掻き同時播種	農業者の所得増大 農業生産の拡大	36
JA芸南	ふれあい市安芸津店新築オープン	農業者の所得増大	18
	馬鈴しょの買取販売		24
JA広島ゆたか	大長ブランドの維持・発展	農業者の所得増大 農業生産の拡大 地域の活性化	25
JA尾道市	特産加工品「はっさくシャーベット」の消費拡大	農業者の所得増大	19
	新品種「つきあかり」の導入	農業者の所得増大 農業生産の拡大	30
JA三原	JA産直市「やさふれあい市場」集客イベントの実施	農業者の所得増大 農業生産の拡大 地域の活性化	19
	広島県発祥のかんきつ「はっさく」を使用したシロップ「瀬戸田はっさく」の販売開始	農業者の所得増大 農業生産の拡大	21
	「柑橘・せとだ柑橘・白ねぎ・落葉果樹・えだまめ」農業塾開講	農業者の所得増大 農業生産の拡大	34
	親子で農業体験2022	地域の活性化	43
	JA三原カレンダー フォトコンテスト		51

JA・連合会	タイトル	テーマ	ページ
JA福山市	FUKUYAMAふくふく市・ふれあい市による産直強化	農業者の所得増大	20
	農畜産物の販売チャネル拡大	農業者の所得増大 農業生産の拡大 地域の活性化	20
	農業塾の開催による様々な担い手の育成支援	農業生産の拡大	35
	農業振興支援事業		36
JA広島北部	産直市巡回	農業者の所得増大	25
JA三次	「農家の声をJA運営に」対話・意思反映に関する取り組み	農業者の所得増大 地域の活性化	16
	新ブランド「みよし和牛」発売!	農業者の所得増大 農業生産の拡大	22
	もち麦など大麦を収穫した後の水田を活用した枝豆栽培	農業生産の拡大	30
	農作業受託		38
	食農教育活動「ちゃぐりんキッズクラブ」の実施	地域の活性化	44
	学校給食へ三次産もち麦使用「もち麦パン」無償提供	農業者の所得増大 地域の活性化	44
	JA三次キッズ謎解きイベントの開催	地域の活性化	52
	JA三次ふるさと祭 食と農の祭典グリーンフェスタ2022の開催		52
JA庄原	広島菜漬需要拡大へ 新商品開発・販売	農業者の所得増大 農業生産の拡大	22
	ピーマン5年で面積3倍 長期栽培で安定収入	農業者の所得増大 農業生産の拡大	31
	多収米「つきあかり」試験 業務用米で経営安定へ		31
	育苗施設サテライト化 施設ごとに機能集約	32	
	ハウス高温対策実証 遮光資材で省力化	農業生産の拡大	32
	化学肥料代替コスト削減 鶏ふん堆肥使い試験	農業者の所得増大 農業生産の拡大	33
	移動スーパー運行開始 買い物困難者の生活守る	地域の活性化	47
	青壮年連盟が政策集を作成		48
	事業や自己改革をPR 48問のクイズで周知	農業生産の拡大 地域の活性化	53
	地域活性化に初のバザー 自治振興区や社協と連携	地域の活性化	53
JA広島信連	農業経営者セミナー	農業者の所得増大 農業生産の拡大	16
	食農教育プロジェクト「起農みらい塾」	地域の活性化	45
JA全農ひろしま	とれたて元気市広島店リニューアルオープン	農業者の所得増大 農業生産の拡大 地域の活性化	21
JA共済連広島	自転車交通安全教室	地域の活性化	49
JA広島中央会	「牛乳消費拡大、応援」に伴う「広島子ども食堂支援センター」への牛乳提供	地域の活性化	45
	第2回 おうちで「お米」を作ってみよう! JAグループ広島「バケツ稲づくり」インスタグラムキャンペーン		46
	食農Fes～あなたと野菜どんな物語がありますか～	農業者の所得増大 農業生産の拡大 地域の活性化	54

■JAグループ広島としての取り組み

タイトル	ページ
組合員との対話運動を通じた不断の自己改革の実践	02
○これまでの自己改革により取り組みが進展	02
○今後の自己改革の実践方策を「自己改革工程表」に明確化	03
持続可能な食料・農業生産の確立	06
○広島県農業の次世代の担い手確保と、農業従事を継続できる環境づくり	06
○生産者の営農継続への支援	07
持続可能な地域・組織・事業基盤の確立	08
○JAの事業・活動を通じた地域・組織の活性化	08
○女性運営参画の促進に向けた意識醸成	09
不断の自己改革の実践を支える経営基盤の強化	10
○組合員サービスの向上に向けたJAの合併	10
「食」「農」「地域」「JA」にかかる県民理解の醸成	11
○「地産地消」の推進に向けた情報発信強化	11
○地域共生社会に向けた取り組み強化	13



JAグループ広島は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

 JAグループ広島

耕そう、大地と地域の未来。